



取扱説明書

XJR1300

XJR1300

5UX-28199-J3

ヤマハ車をお買いあげいただきありがとうございます。

この取扱説明書には、お買いあげいただいた車の正しい取り扱い方法や安全な運転のしかた、日常点検、簡単な定期点検整備などについて説明してあります。

車は万一取り扱いを誤ると、重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。

車の正しい取り扱いをご理解いただくため、運転される前に必ず本書をお読みください。

また、メンテナンスノート、セーフティガイド（バイクをより安全にお乗りいただくためのアドバイス）もあわせてお読みください。

本書では、正しい取り扱いおよび点検整備に関する重要な事項を下記のシンボルマークで表示しています。

	安全にかかわる注意情報を示してあります。
 警 告	取り扱いを誤った場合、死亡または重傷に至る可能性が想定される場合を示してあります。
 注 意	取り扱いを誤った場合、傷害に至る可能性または物的損害の発生が想定される場合を示してあります。
要 点	正しい操作のしかたや点検整備上のポイントを示してあります。

車の受け取りの際には、お買いあげいただいた販売店から「取扱説明書」「メンテナンスノート」「セーフティガイド」を受け取り、以下の説明を必ずお受けください。

- 車の正しい取り扱い方法
- 日常点検、定期点検整備
- 保証内容および保証期間
- 保証書の発行（保証書裏面の記入・捺印）

※車をゆずるときには、次の持ち主のために本書もお渡しください。

※仕様の変更などにより、本書の図や内容が一部実車と異なることがありますのでご了承ください。

もくじ

安全運転のために	1-1
あなた自身と同乗者のために	1-1
歩行者と他の車のために	1-4
環境・住民の方との調和のために	1-4

各部の名称	2-1
左側面	2-1
右側面	2-2
運転装置と計器類	2-3

各部の取り扱いと操作	3-1
キーの取り扱い	3-1
イモビライザーシステム	3-1
メインスイッチ	3-2
警告灯と表示灯	3-3
スピードメーター	3-4
タコメーター	3-4
自己診断機能	3-5
マルチファンクション ディスプレイ	3-6
盗難警報器（オプション）	3-7
ハンドルスイッチ	3-7
フューエルタンクキャップ	3-9
燃料	3-10
フューエルコック	3-10
チョークレバー	3-11
シート	3-11
ヘルメットホルダー	3-12
書類入れ	3-12
小物入れ	3-13
フロントフォークの調整	3-13
リヤクッションの調整	3-15

荷掛けフック	3-17
ブレーキレバー／クラッチレバー の握り調整	3-17
サイドスタンド	3-18
イグニッションサーキットカット オフシステム	3-18

日常点検	4-1
日常点検箇所／点検内容	4-1

運転操作	5-1
始動と暖機運転（エンジンが 冷えている時）	5-1
エンジン始動（エンジンが 暖まっているとき）	5-1
ギヤチェンジのしかた	5-2
ならし運転	5-2
駐車	5-2

点検整備	6-1
サービスツール	6-1
カバーの取り外し、取り付け	6-2
エンジンオイル	6-3
エンジンのかかり具合、 異音の点検	6-4
低速、加速の状態の点検	6-4
エアクリーナーエレメントの清掃	6-4
タイヤ	6-5
クラッチ	6-7

ブレーキレバーの遊び／ブレーキ ペダルの遊び、およびブレーキ のきき具合の点検	6-8
ブレーキランプスイッチ	6-8
ブレーキパッドの点検	6-9
ブレーキ液量の点検	6-9
ブレーキ液の補給	6-10
ドライブチェーン	6-11
ドライブチェーンの給油	6-12
バックミラー	6-12
車体各部の給油脂状態の点検	6-12
アンダーブラケットの取り付け 状態の点検 （ステアリングシステム）	6-13
バッテリー	6-13
ヒューズ交換	6-14
灯火装置および方向指示灯の 点検	6-15
運行において異常が認められた 箇所の点検	6-16

お車の手入れ	7-1
洗 車	7-1
キャストホイールの取り扱い	7-2
保管のしかた	7-2
アフターケア用品について	7-2

製品仕様	8-1
------------	-----

ユーザー情報	9-1
サービスマニュアル（別売）	
の紹介	9-1
車両情報	9-1

安全運転のために

JAU27280

JAU27381

1

この章には、特に知っておいていただきたいこと、守っていただきたいことなどの基本的なアドバイスを述べてあります。運転するときには、次のことを守って安全運転および上手な操作を心がけてください。

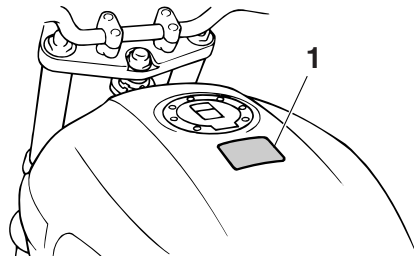
安全運転とは、交通ルールを守ることだけでなく、ほかの人々が安全に通行できるように配慮することです。

あなた自身と同乗者のために

安全項目ラベルについて

運転に慣れてきますと、いろいろな注意を忘れがちになり、事故を起こすことがあります。

車に乗るときには、安全項目ラベルの注意事項をいつも守り、安全運転に心がけてください。



1. 安全項目ラベル

警告

- ・取扱説明書をよく読んで安全な運転をしましょう。
- ・ヘルメットを正しくかぶりましょう。
- ・マフラーは熱くなります。人が触れにくい場所に駐車する等の配慮をしましょう。
- ・ヘッドランプを昼間はロービーム点灯しましょう。
- ・違法改造はやめましょう。
- ・定められた点検整備をメンテナンスノートに従って励行しましょう。

3XC-2118K-10

安全運転は正しい服装から

- ヘルメットは必ず着用してください。ヘルメットは S または SG、JIS マークのある二輪車用を必ず着用してください。ヘルメットは正しくかぶり、必ずあごひもをしめます。頭にしっかり合って、圧迫感のないものが最適です。



- グローブを必ず着用してください。
- ヘルメットにシールドを着用してください。着用できないときは、ゴーグルを使用してください。
- 運転する服装は、明るく目立つ色で動きやすく、体の露出が少ないものを着用してください。疲労を少なくし、万一の転倒時に

は身体を保護します。ズボンのすそや袖口の広い服は、運転操作のじゃまになり、思わぬ事故の原因にもなりますので避けてください。

- 靴はかかとが低く、足にピッタリしたものを選んでください。
- 同乗者にも上記の注意を守らせてください。

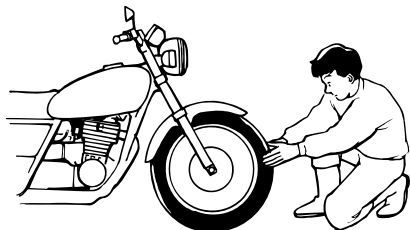
JWA11600

警告

ヘルメットを正しくかぶっていないと、万一の事故の際、死亡または重傷に至る可能性が高くなります。運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり、正しい服装で乗車してください。

日常点検、定期点検整備を必ず行う

事故や故障を防ぐため、法令で定められた1日1回ご使用前に行う日常点検と、法令で定められた6か月、12か月ごとに行う定期点検は必ず実施してください。



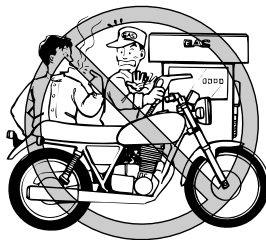
車の異状

次のような場合は、車が故障しているおそれがあります。そのままにしておくと、走行に悪影響をおよぼしたり、事故につながるおそれがあります。販売店で点検・整備を受けてください。

- 異音が生じたり、異臭や異常な振動があるとき。
- 地面に燃料、オイル、冷却水などが漏れた跡があるとき。

給油時は火気厳禁

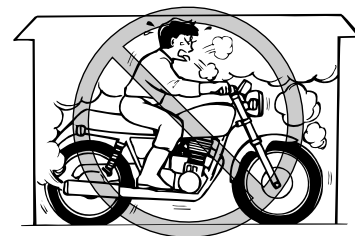
ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。



風通しの悪い場所でエンジンを始動しない

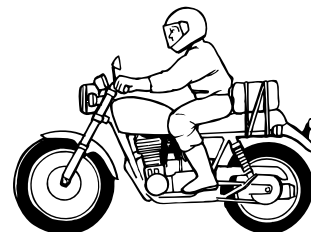
排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。

風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動、暖機運転は風通しのよい屋外で行ってください。



荷物はしっかり固定する

荷物を積むと、積まないときに比べて操縦安定性が変わります。荷物はしっかりと固定し、積み過ぎないように注意してください。

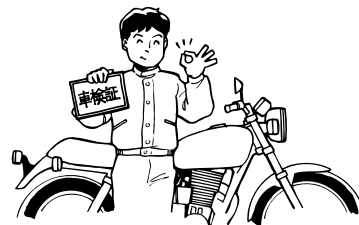
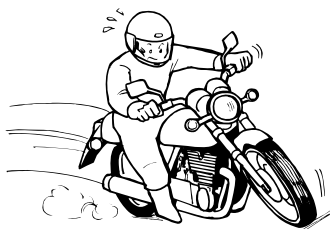
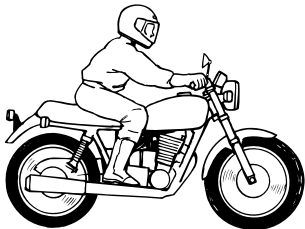


安全運転のために

1

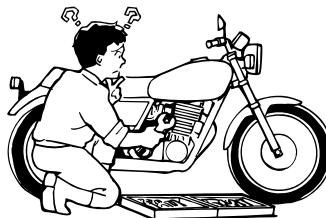
両手はハンドル、両足はフットレスト

- 運転するときは、両手でハンドルを握り、両足をフットレストにのせます。
- 同乗者には、両手で体をしっかり固定させ、両足を必ずフットレストにのせさせます。



自己流のエンジン調整、部品の取り外しはしない

エンジン調整はヤマハ販売店におまかせください。



乗車定員は2名

ただし、免許取得後1年未満の運転者は、法令により2人乗りはできません。

急激なハンドル操作や片手運転はしない

急激なハンドル操作や片手運転は、横すべりや転倒の原因となります。絶対にしないでください。

継続検査（車検）は2年ごとに

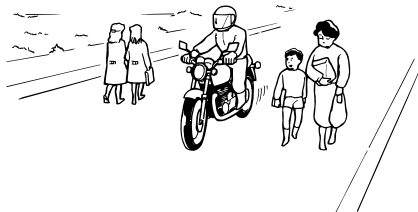
小型自動車（251cc以上）は国で定める2年ごとの継続検査を受けなければ使用できません。

期間満了前に必ず受けてください。

歩行者と他の車のために

他の人への思いやり

- 交通ルールを守り、まわりの歩行者や車の動きに注意し、相手の立場について思いやりの気持ちをもって通行しましょう。
- 周囲の状況に注意して、安全なスピードで走行してください。歩行者や自転車のそばを通るときは、安全な距離を保つか徐行してください。

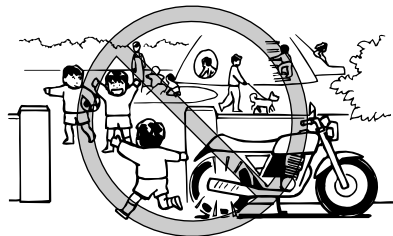


駐車

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。また、Pロック、チェーンロックなどのサイクルロックも同時に使用することをおすすめします。
- 交通のじゃまにならない場所に駐車してください。

JAU27480

- 平坦な場所に駐車してください。やむをえず、傾斜地や柔らかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、転倒や動き出しのないようにしてください。
- 車から離れる前に、スタンドが確実にセットされているかを確認してください。



警告

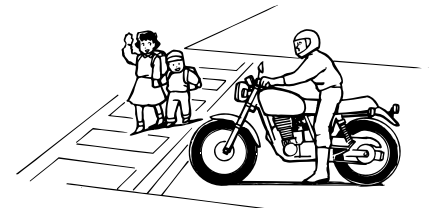
JWA11630

- エンジン回転中および停止後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。触れるとヤケドをすることがありますので、注意してください。また、物などが直接触れないようにしてください。
- 駐車は、通行する人がマフラーやエンジンなどに触れない場所にしてください。

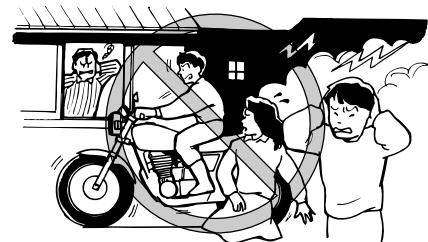
環境・住民の方との調和のために

住民の方への思いやり

自分の都合だけを考えて、沿道の方に不愉快な騒音などの迷惑をかけないでください。



特に深夜の住宅街や人通りの多い道路などで長時間のアイドリングや急発進などを行うと、迷惑になりますのでしないでください。



安全運転のために

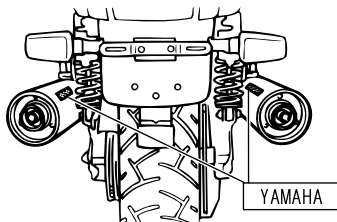
1

違法改造はしない

違法改造は法律により禁止されています。
改造は操縦安定性を悪くしたり、排気音を大きくして車の寿命を縮めたり、重大な事故や故障の原因となります。

また、改造すると車の保証が受けられません。

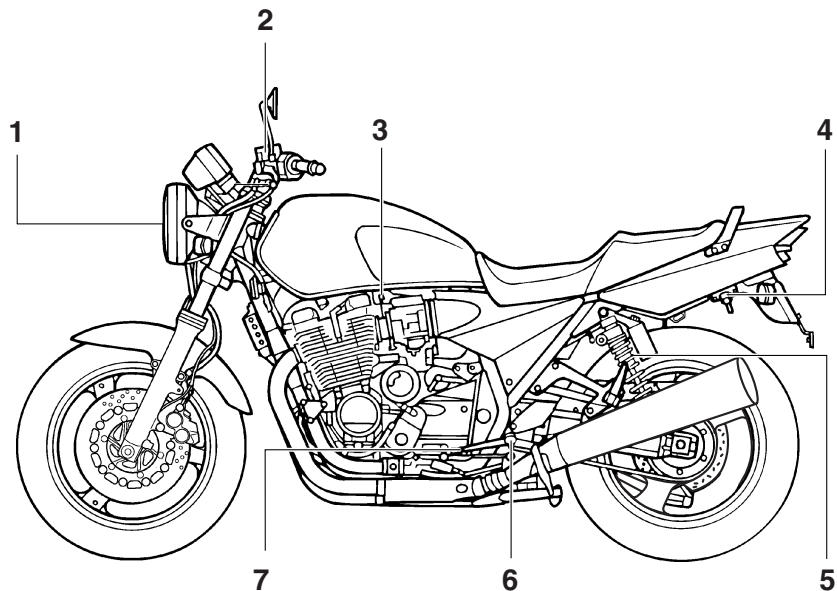
なお、ヤマハ純正部品のマフラーには“YAMAHA”マークが刻印されています。



環境への配慮

廃車をするときや、バッテリー、廃油などの廃棄処理をするときは、環境保護のためお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

左側面



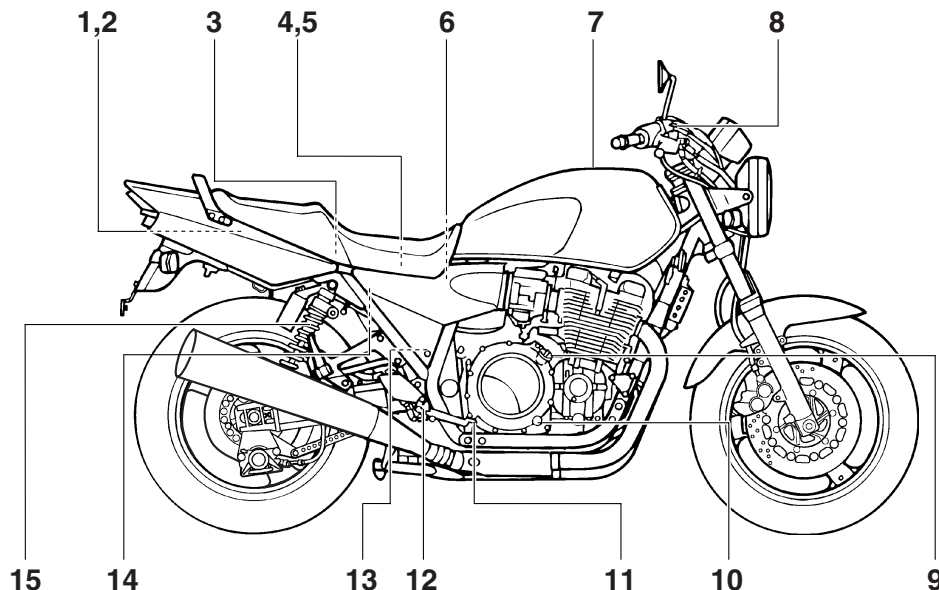
1. ヘッドライト
2. クラッチフルードリザーバータンク (P6-7)
3. フューエルコック (P3-10)
4. シートロック／ヘルメットホルダー (P3-11/P3-12)
5. リヤクッション (P3-15)
6. フットレスト
7. シフトペダル (P5-2)

各部の名称

JAU10420

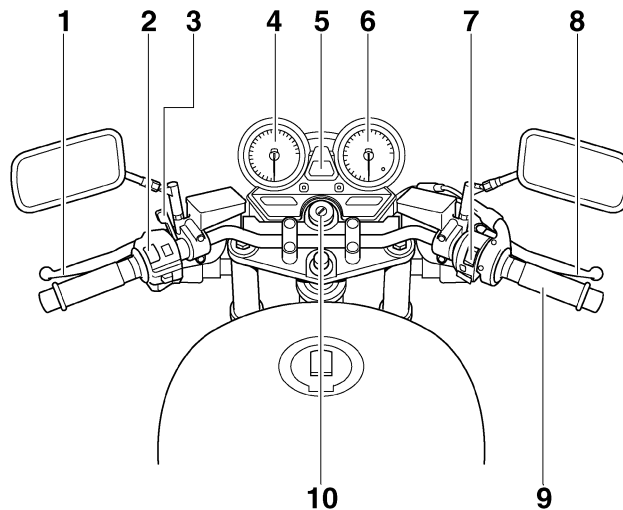
右側面

2



- | | |
|------------------------------------|-------------------------------------|
| 1. 小物入れ (P3-13) | 11. ブレーキペダル (P6-8) |
| 2. 書類入れ (P3-12) | 12. フットレスト |
| 3. サービスツール (P6-1) | 13. ブレーキランプスイッチ (P6-8) |
| 4. バッテリー (P6-13) | 14. 後輪ブレーキフルードリザーバータンク (P6-9/P6-10) |
| 5. ヒューズ (P6-14) | 15. リヤクッション (P3-15) |
| 6. エアクリーナーエレメント (P6-4) | |
| 7. フューエルタンクキャップ (P3-9) | |
| 8. 前輪ブレーキフルードリザーバータンク (P6-9/P6-10) | |
| 9. オイル注入口 (P6-3) | |
| 10. エンジンオイル点検窓 (P6-3) | |

運転装置と計器類



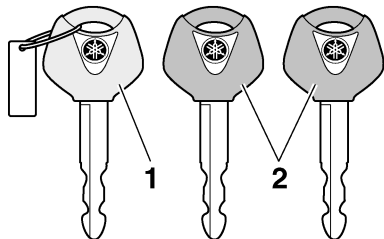
1. クラッチレバー (P6-7)
2. ハンドルスイッチ (左) (P3-7)
3. チョークレバー (P3-11)
4. スピードメーター (P3-4)
5. マルチファンクションディスプレイ (P3-6)
6. タコメーター (P3-5)
7. ハンドルスイッチ (右) (P3-7)
8. ブレーキレバー (P6-8)
9. スロットルグリップ
10. メインスイッチ/ステアリングロック (P3-2)

各部の取り扱いと操作

JAU33070

キーの取り扱い

マスコット部が赤いメインキーが1本とマスコット部が黒いサブキーが2本あります。メインキーはサブキーのIDを登録するときに必要な大切なキーですので、普段は車の操作には使用しないでください。車の操作には、必ずサブキーを使用してください。



1. メインキー（赤）
2. サブキー（黒）

注意

JCA12770

キーを取り扱うときには、下記の内容を必ず守ってください。

- メインキーは大切に保管し、紛失しないよう注意してください。メインキーを紛失するとイモビライザーユニットにサブキーのIDを登録することができなくなります。また、3本のキー全てを紛失した場合は、イモビライザーシステムの構成部品全てを交換しなければなりません。
- キーを水に浸けないでください。

- キーを高温になる場所に置かないでください。
- キーに磁気を帯びたものを近づけないでください。
- キーを落として強い衝撃を与えたり、重いものを載せたりしないでください。
- キーを削ったり、穴を開けたりして形状を変えないでください。
- キーを分解しないでください。
- 複数のイモビライザーキー（この車のキーも含まれます。）を同じキーリングにつけたり、メインスイッチに他のイモビライザーシステムを近づけたりしないでください。IDの認識を妨げ、エンジンの始動ができなくなることがあります。

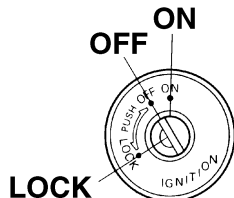
JAU26890

イモビライザーシステム

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。イモビライザーシステムとは、メインキーおよびサブキーにトランスポンダ（固有のIDを持った発信機）を内蔵しており、あらかじめ車両本体のイモビライザーユニットに登録されたIDのキー以外ではエンジンの始動ができないようにしたシステムです。（詳細は3-3ページを参照してください。）

メインスイッチ

JAU10460



メインスイッチはエンジンの始動と停止、ブレーキランプや方向指示灯などの電源の「入/切」、ハンドルロックを行います。

JWA11620

警告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停車中に操作してください。

注意

- 盗難予防のため、車から離れるときは必ずハンドルロックをかけ、キーをお持ちください。
- エンジンをかけないでメインスイッチを ON のままにしたり、エンジン始動後アイドルリング状態を長時間続けると、バッテリーあがりの原因となります。注意してください。

ON

全ての電気回路に電源が供給され、テールランプとメーター灯が点灯し、エンジンを始動させることができます。キーを抜き取ることはできません。

要 点

- エンジンが始動すると、ヘッドライトとポジションランプが自動的に点灯します。エンジンが止まってもメインスイッチを OFF にするまで点灯し続けます。
- スタータースイッチを押して、エンジンが始動しないときにもヘッドライトが点灯することがありますが、異常ではありません。

OFF

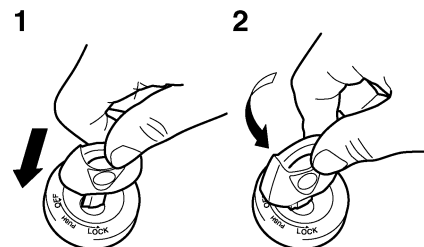
全ての電気回路がオフになり、エンジンが停止します。キーを抜くことができます。

LOCK

ハンドルがロックされます。全ての電気回路がオフになります。キーを抜くことができます。

JAU34600

ハンドルロックのしかた

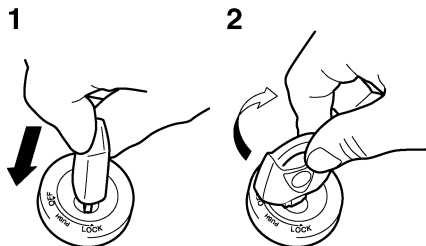


1. 押す
2. 回す

1. ハンドルを左または右にいっぱいに切ります。
2. OFF の位置でキーを押し込み、そのまま LOCK まで回します。
3. キーを抜きます。

各部の取り扱いと操作

ハンドルロックの解除のしかた



1. 押す
2. 回す

LOCK の位置でキーを押しこみ、そのまま OFF まで回します。

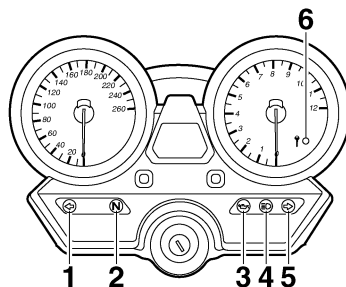
JWA11450

警告

走行中にメインスイッチを OFF や LOCK の位置にすると、電気系統の作動が停止し、事故につながるおそれがあります。メインスイッチは必ず停止中に操作してください。

警告灯と表示灯

JAU11001



1. 方向指示器表示灯 (左) “<”
2. ニュートラルランプ “N”
3. エンジンオイル量警告灯 “ ”
4. ヘッドライト上向き表示灯 “ ”
5. 方向指示器表示灯 (右) “>”
6. イモビライザーシステム表示灯 “ ”

方向指示器表示灯 “</>”

方向指示にあわせて点滅します。

JAU11030

ニュートラルランプ “N”

ギヤがニュートラルのとき点灯します。

JAU11060

ヘッドライト上向き表示灯 “ ”

ヘッドライトを上向きにすると点灯します。

JAU11080

エンジンオイル量警告灯 “ ”

エンジンオイル量が少なくなると点灯します。

警告灯の電気回路は、以下の手順に従って、点検することができます。

1. メインスイッチを ON にします。
2. 警告灯が約 2 秒間点灯し、その後消灯することを点検します。
3. 警告灯が点灯しないときは、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

要 点

エンジンオイル量が十分であっても、坂道を走行しているときや急な加減速の間は、警告灯が点滅することがありますが、これは異常ではありません。

JCA12950

注意

- 何度も点滅したり、点灯したままになるときは、エンジンオイル量を点検してください。不足しているときは、早めに補給してください。オイル量が正常なときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- 警告灯が点灯したまま走行すると、故障の原因となります。

JAU27020

イモビライザーシステム表示灯 “ ”

この車には、盗難抑止のためにイモビライザーシステムを装備しています。メインスイッチを OFF にすると、イモビライザーシ

システムが機能し、メインスイッチ OFF 後、約 30 秒経過するとイモビライザーシステム表示灯が点滅を始めます。その後、約 24 時間経過すると表示灯は消えますが、イモビライザーシステムは機能しています。

要 点

表示灯の球切れや回路点検のため、メインスイッチを ON にすると表示灯が約 1 秒間点灯したあと消灯します。点灯しないときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

自己診断機能

この車には、イモビライザーシステムの異常を知らせる自己診断機能を装備しています。メインスイッチが ON の状態であれば、エンジンの始動、停止にかかわらず、検出した異常内容のコードをイモビライザーシステム表示灯の点灯または点滅で表示します。

JCA12750

⚠ 注 意

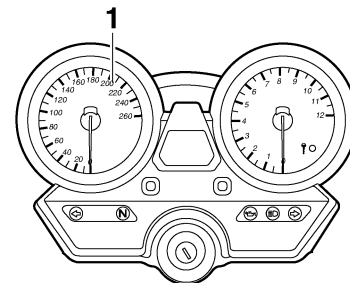
自己診断機能が働いたときは、ヤマハ販売店にて点検・整備を受けてください。

イモビライザーシステム表示灯が長く 5 回点滅した後、短く 2 回点滅するパターンの異常コード表示を繰り返したときは、キーの ID の認識が妨げられた可能性があります。3 本のキー全てで、エンジンが始動できるかを確認してください。エンジンの始動ができないキーがあった場合には、お買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

要 点

他のイモビライザーキーをメインスイッチに近づけたり、複数のイモビライザーキーを同じキーリングにつけたりしないでください。（この車のキーも含まれます。）ID の認識を妨げ、エンジンの始動ができないことがあります。

スピードメーター



1. スピードメーター

車の速度を示します。
電気回路のチェックのため、メインスイッチを ON にすると、指針が一旦最大値を示し、“0”に戻ります。

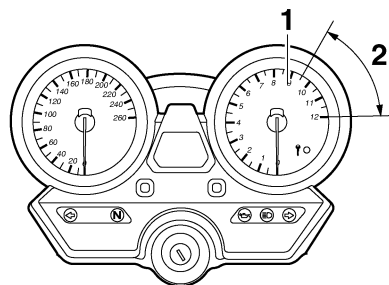
各部の取り扱いと操作

JAU33801

JAU11991

JCA11870

タコメーター



1. タコメーター
2. レッドゾーン

毎分のエンジン回転数を示します。
電気回路のチェックのため、メインスイッチを ON にすると、指針が一旦最大値を示し、“0”に戻ります。

JCA12960

⚠ 注意

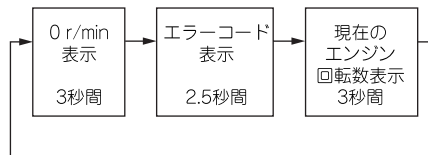
エンジン回転中は、タコメーターの指針がレッドゾーンに入らないようにしてください。レッドゾーン：9500 r/min 以上

自己診断機能

このモデルには次の電気回路用の自己診断装置が備わっています。

- スロットルポジションセンサー
- スピードセンサー

回路のいずれかが故障した場合、タコメーターは以下のエラーコードを繰り返し表示します。



下記の表で、故障している電気回路を確認します。

故障箇所とエラーコード表示：

スロットルポジションセンサー：

3000 r/min

スピードセンサー：

4000 r/min

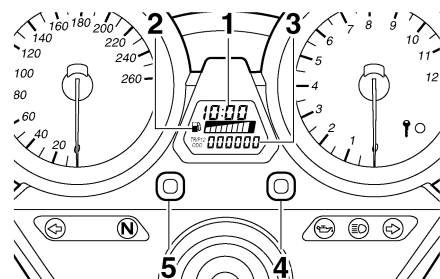
タコメーターにエラーコードが表示された場合、エラーコードを控え、ヤマハ販売店で車の点検を受けてください。

⚠ 注意

タコメーターがエラーコードを表示している時は、エンジンの損傷を防ぐために、できるだけ早く車を点検してください。

各部の取り扱いと操作

マルチファンクションディスプレイ



1. 時計
2. 燃料計
3. オドメーター／トリップメーター
4. リセットスイッチ
5. セレクトスイッチ



表示の切り替え、時刻調整等の操作は、必ず停車中に行ってください。

要 点

メインスイッチを ON にすると、全てのセグメントを表示し、約 2 秒後通常表示になります。

- <上段>
時計を表示します。
- <中段>
燃料計を表示します。

● <下段>

オドメーター、トリップメーターを表示します。メインスイッチを ON にすると表示し、OFF にしても設定は記憶しています。表示はセレクトスイッチを押して切り替えます。セレクトスイッチを 1 回押すごとに <ODO> → <TRIP1> → <TRIP2> → <ODO> の順に切り替わります。

要 点

メインスイッチを ON にしてからセレクトスイッチとリセットスイッチを使用してください。

時計

時刻を常に表示します。(12 時間表示)

時刻調整のしかた



時刻調整は、必ず停車中に行ってください。

1. セレクトスイッチとリセットスイッチを同時に 2 秒以上押し続けます。→ <時>の数字が点滅します。
2. リセットスイッチを押して<時>の調整をします。

要 点

- リセットスイッチを押すごとに、数字が 1 ずつ進みます。

- 1 秒以上押し続けると、数字が連続して進みます。

3. セレクトスイッチを押して<時>を確定します。→ <分>の数字が点滅します。
4. リセットスイッチを押して<分>の調整をします。
5. セレクトスイッチを押して<分>を確定すると、時刻調整が完了します。

燃料計 “ ”

ガソリンの残量をセグメントの点灯で表示します。点灯しているセグメントの数が減ったら（ガソリンの残量が少なくなったら）、早めに補給してください。

要 点

残量の確認は、平坦な場所でメインスタンドを立て、メインスイッチを ON にしてください。

この燃料計は、電気回路の自己診断機能を装備しています。回路に異常が発生したときは、セグメントとシンボルマーク “ ” が点滅します。自己診断機能が働いたときは、早めにヤマハ販売店で点検を受けてください。

オドメーター

走行した総距離を km の単位で表示します。オイル交換や定期点検整備の目安にもなります。

各部の取り扱いと操作

トリップメーター

リセットスイッチを押してメーターを“0.0”にすると、次にリセットするまでの走行距離を積算します。＜TRIP1＞と＜TRIP2＞の設定は、それぞれ個別にできます。

盗難警報器（オプション）

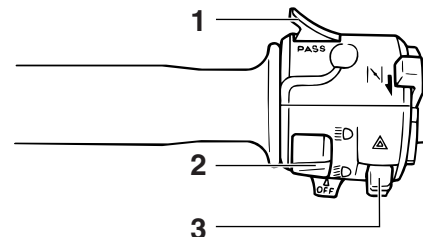
この車には、オプションで盗難警報器を装着することができます。装着については、お買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

JAU12330

JAU12343

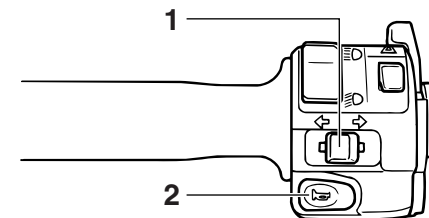
ハンドルスイッチ

左



1. パッシングライトスイッチ“PASS”
2. ヘッドライト上下切り替えスイッチ“D/H”
3. ハザードスイッチ“△”

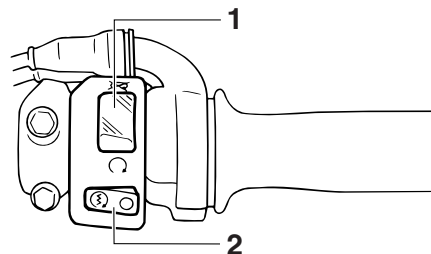
左



1. 方向指示器スイッチ“←/→”
2. ホーンスイッチ“📢”

各部の取り扱いと操作

右



1. エンジンストップスイッチ “○/✕”
2. スタータースイッチ “㊟”

パッシングライトスイッチ (PASS)

ヘッドライトの上向きを点灯させるスイッチです。先行車の追い越しなどで、他車に合図をするときに使用します。

要 点

ヘッドライト上下切り替えスイッチが ≡○ のときは、使用できません。

ヘッドライト上下切り替えスイッチ

“≡○/≡○”

ヘッドライトの配光を上向き、下向きに切り替えるスイッチです。

≡○ (上向き) : 遠くを照らします。

≡○ (下向き) : 近くを照らします。

要 点

先行車や対向車があるときは、ヘッドライトを下向き “≡○” にしてください。

方向指示器スイッチ “◁ ▷”

進路変更の合図に使用します。

操作は、進路変更する側にスイッチをスライドさせます。

消灯するときは、スイッチを押します。

▷ : 右側の方向指示灯が点滅します。

◁ : 左側の方向指示灯が点滅します。

⚠ 警告

方向指示灯は自動的に消灯しません。使用後は、必ず消灯してください。点滅したままにしておくと、他のかたの迷惑になります。

⚠ 注意

電球を交換するときは、正規のワット数のものを使用してください。これ以外のものを使用すると、正常に作動しません。

エンジンストップスイッチ “○/✕”

非常時に、エンジンをすぐに停止させるスイッチです。通常は ○ にしておきます。

⚠ 警告

非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、マフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。

⚠ 注意

- 非常時にエンジンストップスイッチでエンジンを停止させたときは、必ずメインスイッチを OFF にしてください。ON のままですと、バッテリーあがりの原因となります。
- 走行中に、エンジンストップスイッチを ○ → ✕ → ○ にしないでください。エンジンの回転が不円滑となり、エンジン不調の原因となります。また、排出ガス浄化装置の故障の原因となります。

要 点

✕ にすると、エンジンは始動できません。

スタータースイッチ “㊟”

このスイッチを押すと、スターターモーターが回転し、エンジンが始動します。

各部の取り扱いと操作

⚠ 注意

JCA11881

- スターターモーターを連続して回転させないでください。消費電力が多いためバッテリーあがりの原因となります。
- エンジンを始動させる前に、5-1ページの始動手順を参照してください。

3

ハザードスイッチ“△”

JAU33810

メインスイッチを ON にした状態でスイッチを押し、ハザードランプを点灯させます（全ての方向指示器が点滅します）。ハザードランプは、故障などの非常時に他車に知らせるために使用します。

JCA11890

⚠ 注意

バッテリーあがりを防ぐため、ハザードランプを長時間使用しないでください。

フューエルタンクキャップ

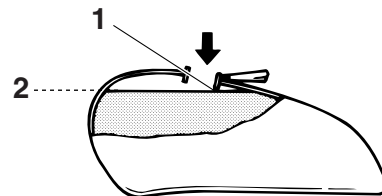
JAU13070

⚠ 警告

JWA12170

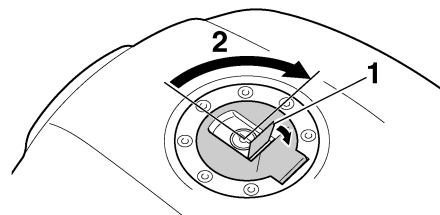
給油時およびガソリンを取り扱う場合は、次のことを必ず守ってください。

- 給油時は必ずエンジンを止め、火気を近づけないでください。ガソリンは揮発性が高く、引火しやすい燃料です。
- フューエルタンクキャップを開ける前に、車体などの金属部分に触れて静電気の除去を行ってください。身体に静電気を帯びた状態で給油すると、放電による火花で引火する場合があります。
- 給油操作は、必ず一人で行ってください。複数で行うと静電気が除去できない場合があります。
- 給油は、必ず屋外で行ってください。
- 給油限度を超えてガソリンを入れないでください。走行中にガソリンがにじみ出ることがあります。
- 給油後、フューエルタンクキャップを確実に閉めてください。



1. フィラーチューブ
2. 給油限度

フューエルタンクキャップの開けかた



1. ロックカバー
2. 解除

フューエルタンクキャップロックカバーを開け、キーをロックに差し込み、時計方向に 1/4 回します。ロックが解除され、フューエルタンクキャップは開きます。

フューエルタンクキャップの開めかた

1. キーをロックに差し込んだ状態でフューエルタンクキャップを押して開めます。
2. キーを反時計方向に、元の位置へ回し、キーを外し、ロックカバーを閉めます。

要 点

キーを抜き取ると、フューエルタンクキャップを開めることはできません。また、フューエルタンクキャップを正しく閉めないで、キーを抜き取るとはできません。

燃料

指定燃料

指定燃料：
無鉛レギュラーガソリン
タンク容量：
約 21.0 L
予備容量：
約 4.5 L

注意

- 必ず指定燃料を使用してください。指定以外の燃料を使用するとエンジンの始動性が悪くなったり、出力低下などのエンジン不調の原因となる場合があります。また、エンジンや燃料系の部品を損傷するおそれがあります。
- こぼれたガソリンは、布切れなどできれいにふき取ってください。
- タンクにゴミやチリなどの不純物が入らないように注意してください。

JAU31460

JAU28280

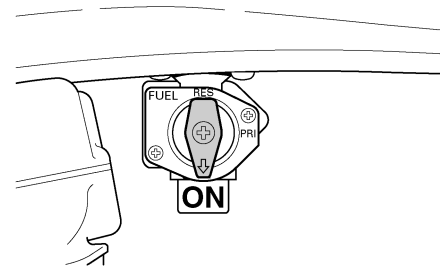
JCA12510

JAU13580

フューエルコック

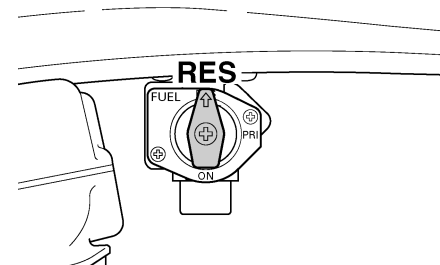
この車のフューエルコックは自動コックです。ON および RES の位置でエンジンが停止すると、自動的にガソリンの流れが止まります。

ON



始動および走行時のレバー位置です。

RES



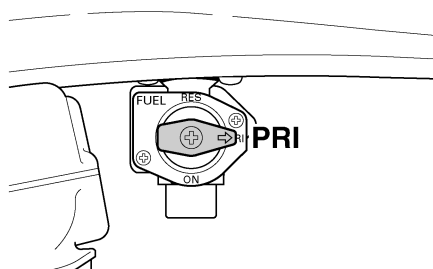
各部の取り扱いと操作

予備燃料（予備容量約 4.5 L）のレバー位置です。

ON で走行中にガソリンがなくなったら、レバーをこの位置にします。予備燃料が使用できますが早めに給油してください。給油を終えたらレバーを ON に戻してください。

PRI

3



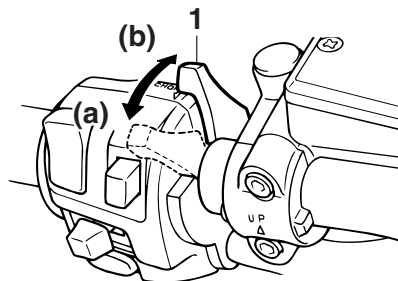
RES の位置でガソリンがなくなり、給油するときにこの位置にします。（給油後の始動が容易になります。）

給油を終えたらレバーを ON に戻してください。

要 点

ON で走行中にガソリンがなくなったときは、約 1 分間レバーを PRI にしてから RES にしてください。始動が容易になります。

チョークレバー “”



1. チョークレバー “”

エンジンが冷えているときは、チョークを使用するとエンジンの始動が容易になります。レバーを (a) 方向に移動させ、チョークをオンにします。

レバーを (b) 方向に移動させ、チョークをオフにします。

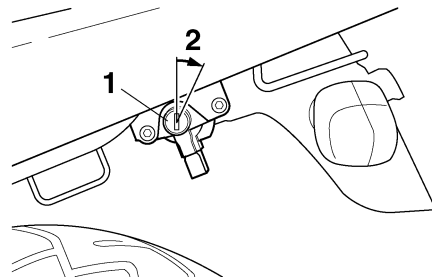
JAU13590

シート

JAU13940

シートの取り外しかた

1. キーをシートロックに差し込み、時計方向に回します。

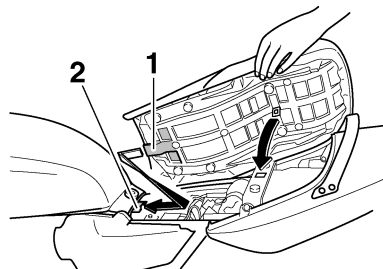


1. シートロック
2. 解除

2. シートの後部を持ち上げ、シートを取り外します。

シートの取り付けかた

1. シートの前部にある突起を図のようにしてシートホルダーに差し込みます。



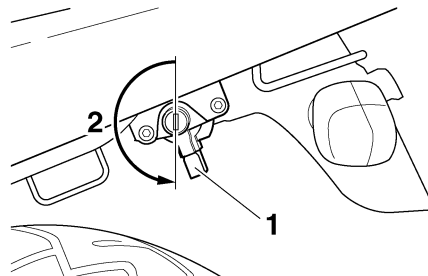
1. 突起
2. ホルダー

2. シートの後部を押し、シートをロックします。
3. キーを抜き取ります。

要 点

走行前に、必ず、シートが確実にロックされているか確認してください。

ヘルメットホルダー



1. ヘルメットホルダー
2. 解除

キーでロックを解除し、ヘルメットのあごひもの金具部分を掛けてロックします。

JWA11650

警告

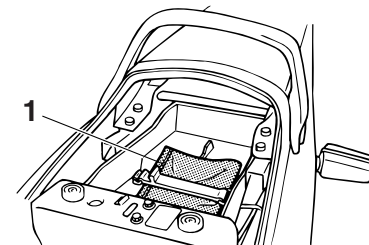
ヘルメットをヘルメットホルダーに掛けたまま走行しないでください。ヘルメットが運転を妨げ、思わぬ事故の原因になったり、車の部品に損傷を与えたり、またヘルメットにも損傷を与え保護機能を低下させます。

要 点

ヘルメットホルダーは、常にロックしておいてください。

書類入れ

シートを外すと書類入れ（収納用ポーチ）があります。車検証、保険証、メンテナンスノートはビニール袋に入れ、ここに保管してください。ポーチは二つ折りにし、ゴムバンドで固定してください。

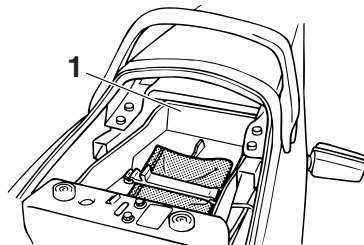


1. 書類入れ

各部の取り扱いと操作

小物入れ

JAU14451



1. 小物入れ

シートの下に小物入れがあります。(3-11ページ参照)

JWA12430

⚠ 警告

小物入れ内に積む荷物は、荷重制限 3 kg を越えないでください。

JCA12970

⚠ 注意

小物入れを使用する時は以下の点に注意してください。

- 洗車をする中に水が入ることがあります。大切な物は、ビニール袋などに入れて収納してください。
- 濡れた物は、ビニール袋に入れてから収納してください。濡れたまま収納すると、小物入れ内にカビなどが発生することがあります。

- 貴重品やこわれやすい物はいれないでください。
- 小物入れ内は直射日光などで温度が高くなります。熱の影響を受けやすい物はいれないでください。
- 車から離れるときは必ずシートをロックしてください。
- キーを小物入れ内に入れたままシートを閉じると、ロックされ開けられなくなります。注意してください。

フロントフォークの調整

JAU14741

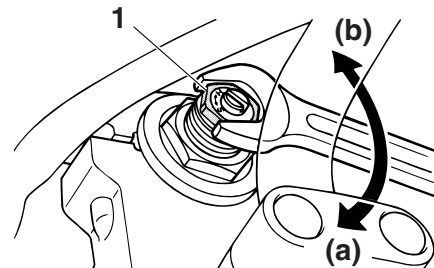
フロントフォークには、スプリングブリロードアジャスター、伸側減衰力アジャスターおよび圧側減衰力アジャスターが装備されています。

JWA11480

⚠ 警告

アジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

スプリングブリロード

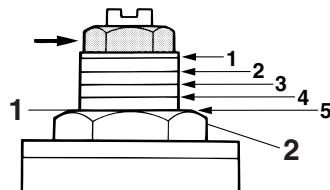


1. スプリングブリロードアジャスター

スプリングブリロードを高くしてサスペンションを硬くするには、左右のフロントフォークのアジャスターを (a) 方向に回します。スプリングブリロードを低くしてサスペンションを柔らかくするには、左右のフロントフォークのアジャスターを (b) 方向に回します。

要 点

アジャスターの溝とフロントフォークキャップボルトの頭部を合わせます。



1. 調整位置
2. フロントフォークキャップボルト

スプリングプリロード：

最小（ソフト）：

8 段

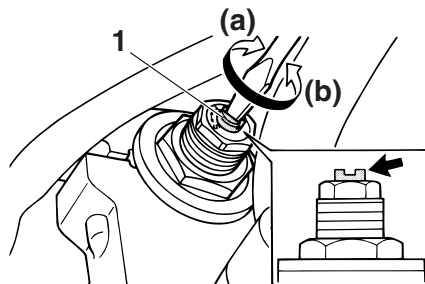
標準：

5 段

最大（ハード）：

1 段

伸側減衰力



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力を強めるには左右のフロントフォークの伸側減衰力アジャスターを (a) 方向に回します。伸側減衰力を弱めるには左右のフロントフォークの伸側減衰力アジャスターを (b) 方向に回します。

(アジャスターを (a) 方向にいっぱい回してから、(b) 方向に戻して初めに節度があるところが 1 段目です。)

伸側減衰力：

最大（ハード）：

1 段

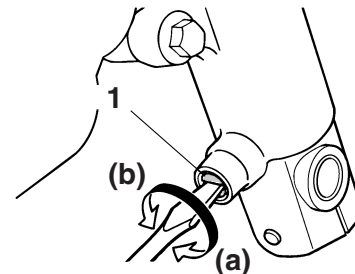
標準：

6 段

最小（ソフト）：

10 段

圧側減衰力



1. 圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力を強めるには左右のフロントフォークの圧側減衰力アジャスターを (a) 方向に回します。圧側減衰力を弱めるには左右のフロントフォークの圧側減衰力アジャスターを (b) 方向に回します。

(アジャスターを (a) 方向にいっぱい回してから、(b) 方向に戻して初めに節度があるところが 1 段目です。)

圧側減衰力：

最大（ハード）：

1 段

標準：

7 段

最小（ソフト）：

9 段

各部の取り扱いと操作

JCA11910

⚠ 注意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

要 点

アジャスターは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

JAU34580

リヤクッションの調整

リヤクッションには、スプリングプリロードアジャスター、伸側減衰力アジャスターおよび圧側減衰力アジャスターが装備されています。

JWA11480

⚠ 警告

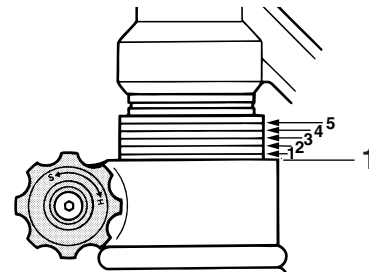
アジャスターは左右同じ位置に調整してください。左右が異なると操縦安定性に悪影響をおよぼします。

JWA12440

⚠ 警告

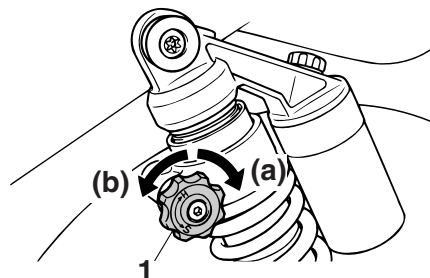
シートに人を乗せて調整をしないでください。車が動き、手などに思わぬケガをすることがあります。

スプリングプリロードを高くしてサスペンションを硬くするには、左右のフロントフォークのアジャスターを (a) 方向に回します。スプリングプリロードを低くしてサスペンションを柔らかくするには、左右のフロントフォークのアジャスターを (b) 方向に回します。



1. 調整位置

スプリングプリロード



1. スプリングプリロードアジャスター

スプリングプリロード：

最小（ソフト）：

5 段

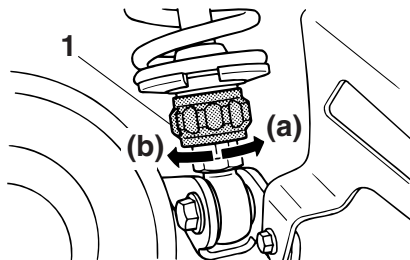
標準：

5 段

最大（ハード）：

1 段

伸側減衰力



1. 伸側減衰力アジャスター

伸側減衰力を強めるには左右のリヤクッションの伸側減衰力アジャスターを (a) 方向に回します。伸側減衰力を弱めるには左右のリヤクッションの伸側減衰力アジャスターを (b) 方向に回します。
(アジャスターを (a) 方向にいっぱいに戻してから、(b) 方向に戻して初めに“カチッ”というところが1段目です。)

伸側減衰力：

最大（ハード）：

1 段

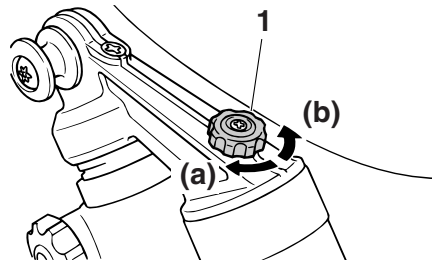
標準：

14 段

最小（ソフト）：

30 段

圧側減衰力



1. 圧側減衰力アジャスター

圧側減衰力を強めるには左右のリヤクッションの圧側減衰力アジャスターを (a) 方向に回します。圧側減衰力を弱めるには左右のリヤクッションの圧側減衰力アジャスターを (b) 方向に回します。
(アジャスターを (a) 方向にいっぱいに戻して止まった位置が1段となり、(b) 方向に戻して初めに“カチッ”というところが2段目です。)

圧側減衰力：

最大（ハード）：

1 段

標準：

4 段

最小（ソフト）：

4 段

⚠ 注意

調整範囲を超えて、アジャスターを回さないでください。

要 点

アジャスターは調整範囲以上にも回りますが、減衰力に変化はありません。調整範囲内で使用してください。

3

JWA12450

⚠ 警告

切り替えるときに異常がありましたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11510

⚠ 警告

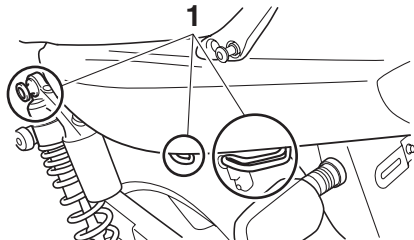
リヤクッションユニットは高圧の窒素ガスを含んでいますので下記のことを厳守してください。

- 分解しない。
- 火気の中に投げ込まない。
- 廃棄するには、ガス抜きが必要です。必ずお買い上げのヤマハ販売店にご相談ください。

各部の取り扱いと操作

JAU34610

荷掛けフック



1. 荷掛けフック

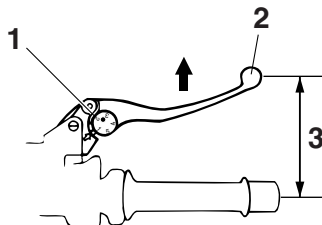
荷掛けフックは6個あります。そのうち2個は収納式です。

JAU29821

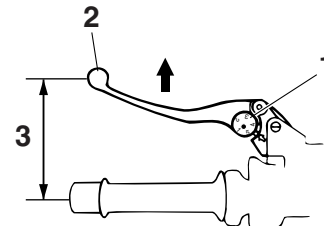
ブレーキレバー／クラッチレバーの握り調整

手の大きさに合わせて、ブレーキレバー、クラッチレバーの握り幅が5段階に調整できます。

調整は、レバーを前側に押しながらアジャスターを回します。



1. グリップアジャスター
2. ブレーキレバー
3. 握り幅



1. グリップアジャスター
2. クラッチレバー
3. 握り幅

サイドスタンド

JAU15300

サイドスタンドはフレームの左側にあります。車を直立にした状態で、足でサイドスタンドを上げ下げします。

要 点

この車にはサイドスタンドスイッチが装備されています。(サイドスタンドスイッチについては以下を参照してください。)

⚠ 警 告

JWA11530

サイドスタンドをおろした状態で、またはサイドスタンドが正しく上がらない（上がった状態にならない）場合、車を運転しないでください。サイドスタンドが地面に接し、操縦安定性を損なうことがあります。ヤマハのイグニッションサーキットカットオフシステムは、発進前にサイドスタンドの上げ忘れを防止するよう設計されています。従って、以下のように定期的にこのシステムを点検してください。正しく機能しない場合にはヤマハ販売店に修理を依頼してください。

イグニッションサーキットカットオフシステム

JAU15321

イグニッションサーキットカットオフシステム（サイドスタンドスイッチ、クラッチスイッチおよびニュートラルスイッチを含む）には次の機能があります。

- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドが上げてあるが、クラッチレバーを握っていないとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、クラッチレバーを握っているが、サイドスタンドが下がっているとき、エンジンは始動できません。
- ギヤがニュートラル以外で、サイドスタンドを下げるとエンジンが停止します。

イグニッションサーキットカットオフシステムの作動を、以下の手順に従って定期的に点検してください。

JWA11550

⚠ 警 告

- 点検中はメインスタンドを立ててください。
- 点検の結果異常があった場合は、走行前にヤマハ販売店でシステムの点検を受けてください。

各部の取り扱いと操作

3

エンジンを停止したときに：

1. サイドスタンドを下ろします。
2. エンジンストップスイッチをオンにします。
3. メインスイッチをONにします。
4. ギヤをニュートラルに入れます。
5. スタータースイッチを押します。

エンジンは始動しましたか？

はい

いいえ

エンジンが始動した状態のまま：

6. サイドスタンドを上げます。
7. クラッチレバーを握ります。
8. ギヤを入れます。
9. サイドスタンドを下ろします。

エンジンは停止しましたか？

はい

いいえ

エンジンが停止した後：

10. サイドスタンドを上げます。
11. クラッチレバーを握ります。
12. スタータースイッチを押します。

エンジンは始動しましたか？

はい

いいえ

イグニッションサーキットカットオフシステムは正常です。走行可能です。

要 点

この点検は、エンジンを充分暖気してから行ってください。

ニュートラルスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

サイドスタンドスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

クラッチスイッチの故障が考えられます。
すぐにヤマハ販売店にて点検を受けてください。

日常点検の実施

車を安全で快適に使用いただくため、道路運送車両法で、1日1回の日常点検を行うことが義務づけられています。
必ず実施してください。

JAU15591

JWA12030

警告

- 日常点検を怠ると重大な事故やケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
- 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)

日常点検箇所／点検内容

詳しい点検の方法は、6-1 ページ以降の点検整備の方法および別冊「メンテナンスノート」を参照してください。

JAU30061

点検箇所	点検内容
ブレーキ	● ブレーキペダルの踏みしろおよびレバーの握りしろが適切で、ブレーキのききが充分であること。 ● ブレーキ液の量が適当であること。
タイヤ	● タイヤの空気圧が適当であること。 ● 亀裂、損傷がないこと。 ● 異常な摩耗がないこと。 ● 溝の深さが充分あること。(※)
エンジン	● エンジンオイルの量が適当であること。(※) ● かかり具合が良好で、かつ、異音がないこと。(※) ● 低速、加速の状態が適当であること。(※)
灯火装置および方向指示灯	● 点灯または点滅具合が良好で、かつ、汚れや損傷がないこと。
運行において異常が認められた箇所	● 当該箇所に異常がないこと。

(注)

※印の点検は車の走行距離、運行時の状態などから判断した適切な時期(長距離走行時や洗車、給油後など)に実施をしてください。

JWA11731

警告

安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。点検整備するときは安全に充分注意し、下記の内容を守ってください。

- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。
- エンジン停止直後は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。直接触れたりしないでください。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。
- 走行して点検するときは、交通状況に注意してください。
- 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

始動と暖機運転（エンジンが冷えている時）

JAU16420

JWA11560

⚠ 警告

- エンジンを始動する前に、3-18 ページに記述された手順で、イグニッションサーキットカットオフシステムの機能を点検します。
- サイドスタンドをおろした状態で走行しないでください。

1. フューエルコックを ON にします。
2. メインスイッチを ON にし、エンジンストップスイッチが○にセットされていることを確認します。
3. ギヤをニュートラルの位置にシフトします。

要 点

ギヤをニュートラルにしたとき、ニュートラルランプが点灯しない場合、ヤマハ販売店で電気回路の点検を受けてください。

4. チョークをオンにし、スロットルを完全に閉めます。(3-11 ページ参照)
5. スタータースイッチを押して、エンジンを始動させます。

要 点

スタータースイッチで 5 秒以内にエンジンが始動しないときは、バッテリー電圧を回復させるため、10 秒位休ませてからスタータースイッチを押してください。

6. エンジンが始動したら、20 ～ 30 秒後にチョークを途中まで戻します。

JCA12590

⚠ 注意

エンジンを長持ちさせるため、発進の前には常にエンジンを暖機してください。エンジンが冷えている間の無用な空ふかしは避けてください。

7. エンジンが充分暖まり、エンジンの回転が安定したら、チョークをオフにします。

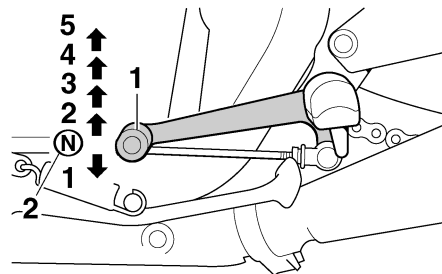
エンジン始動（エンジンが暖まっているとき）

JAU16640

エンジンが暖まっているときは、チョークを必要としないことを除いて、エンジンが冷えている時のエンジン始動と同じ手順で行います。

ギヤチェンジのしかた

JAU27510



1. シフトペダル
2. ニュートラル

この車はリターン式の5段変速です。
ギヤチェンジは、スロットルグリップを一度戻してからクラッチレバーを握り、シフトペダルで操作します。

JCA12030

⚠ 注意

- シフトペダルは、足ごたえがあるまで確実に操作してください。
- クラッチレバーを確実に握らずにギヤチェンジしたり、無理なギヤチェンジは、チェンジ機構の故障の原因になります。

ならし運転

JAU31470

ならし運転のしかた

初回1か月目（または1000km走行まで）の点検までは、ならし運転をしてください。ならし運転中はエンジン回転数を6000 r/min以下で走行してください。また、不要なからふかしや急加速、急減速はしないでください。ならし運転を行うと車の寿命を延ばします。

JAU27660

駐車

駐車するときは、エンジンを止め、キーをメインスイッチから抜きます。

JAU17200

⚠ 警告

- エンジンやマフラーは高温になります。通行する人などが触れない場所に駐車してください。
- 傾斜地や地面が柔らかいところには駐車しないでください。車が転倒することがあります。

JWA11580

点検整備

点検整備の実施

JAU129831

日常点検

4-1 ページ「日常点検箇所／点検内容」の表にしたがって、1日1回実施してください。点検の方法については、本書の以降のページや、別冊「メンテナンスノート」の点検整備のしかた以降のページを参照してください。

定期点検整備

定期点検整備は車を使用する人が自己管理責任で定期的に行う点検整備で、法または法に準じて行うことが義務づけられています。二輪自動車または原動機付自転車については、6か月点検と12か月点検の2種類があります。

JWA12051

警告

- 点検整備を怠ると重大な事故、ケガ、トラブルの原因となります。必ず実施してください。
 - 安全のため、ご自身の知識、技量にあわせた範囲内で点検・整備を行ってください。難しいと思われる内容はヤマハ販売店にご依頼ください。
- 点検するときは安全に充分注意し、以下の内容を守ってください。
- 点検は平坦で足場のしっかりした場所を選び、スタンドを立てて行ってください。

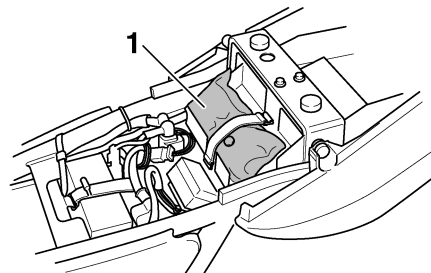
- エンジン停止直後の点検は、エンジン本体やマフラー、エキゾーストパイプなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 排気ガスには、一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。風通しの悪い場所や屋内でエンジンをかけると、ガス中毒を起こす危険があります。エンジンの始動、暖機運転は風通しのよい屋外で行ってください。
- 走行して点検するときは、周囲の交通事情に充分注意してください。
- 異常が認められたときは、ご使用のかたご自身またはヤマハ販売店で必ず整備を行ってください。

要 点

- 点検整備に使用する工具は、必要に応じてお買い求めください。(モデルにより、車載工具の有無や内容が異なります。)
- 点検結果は、別冊「メンテナンスノート」の定期点検整備記録簿に記入してください。ご自身でできない項目については、ヤマハ販売店で点検を受け、記録してください。
- 点検の記録は廃車されるまで保存してください。
- メーカー指定項目の点検結果は、定期点検整備記録簿の「その他」の欄に記録してください。

サービスツール

JAU17380

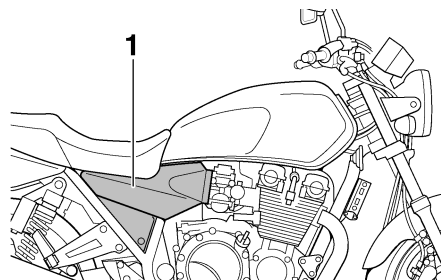


1. サービスツール

サービスツールはシートの下側にあります。
(3-11 ページ参照)

カバーの取り外し、取り付け

JAU18750



1. カバー A

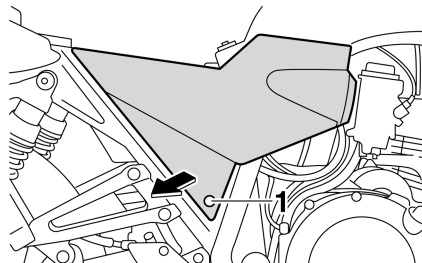
図のカバーは、点検整備などで取り外す必要があります。カバーを取り外すときや、取り付けるときは、この項目を参照してください。

カバー A

JAU33550

カバーの取り外しかた

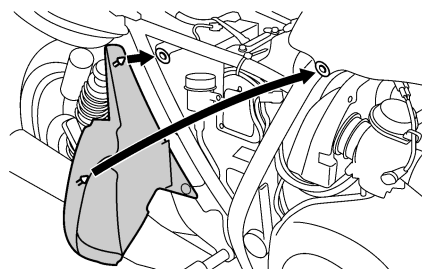
1. シートを取り外します。(3-11 ページ参照)
2. ボルトを外し、図のようにカバーを取り外します。



1. ボルト

カバーの取り付けかた

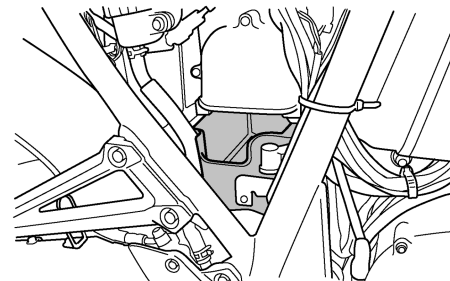
1. カバーをもとの位置に取り付け、ボルトを締め付けます。



2. シートを取り付けます。

注意

ここは小物入れではありません。布きれなどの物を入れないでください。エンジン不調の原因となる場合があります。



点検整備

エンジンオイル

JAU30450

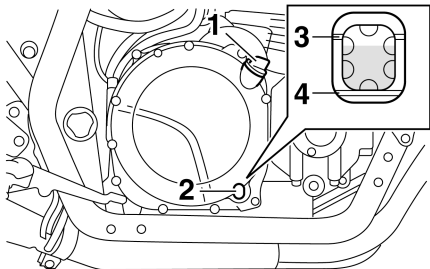
エンジンオイル量の点検

1. 平坦な場所でエンジンを2～3分間アイドリング運転します。

要 点

走行直後でエンジンを十分に暖機してあれば、アイドリング運転は不要です。

2. エンジンを止めてメインスタンドを立て（車を垂直にする）、2～3分後、オイル点検窓からエンジンオイル量を点検します。

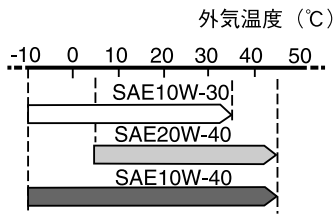


1. オイル注入口
 2. エンジンオイル点検窓
 3. フルレベル
 4. ロアレベル
3. オイル量が規定量以下のときは、オイル注入口から補給します。

＜推奨エンジンオイル＞

	SAE	JASO
ヤマハ純正オイル エフェロプレミアム	10W-40	MA
ヤマハ純正オイル エフェロスポーツ	10W-40	MA
ヤマハ純正オイル エフェロベーシック	20W-40 または 10W-30	MA

エンジンオイルの粘度は、外気温によって表を参考にして使いわけてください。



エンジンオイルの交換時期

- 初 回：
- 1 か月点検時または 1000km 時
- 2 回目以降：
- 6000km 走行毎または 1 年毎

オイルフィルターの交換時期

- 初 回：
- 1 か月点検時または 1000km 時
- 2 回目以降：
- 18000km 走行毎

JWA11860

警告

- 走行後やエンジン暖機運転後、しばらくの間はマフラーやエンジンなどが熱くなっています。ヤケドに注意してください。
- 油脂類の廃液は、法令（公害防止条例）で適切な処理を行うことが義務づけられています。ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12100

注意

- 化学添加剤は一切加えないでください。またヤマハ純正オイルエフェロ FX をこの車に使用しないでください。エンジンオイルはクラッチも潤滑しています。添加剤によりクラッチがすべる原因になります。
- 補給時に、オイル注入口からゴミなどが入らないように注意してください。
- オイルをこぼしたときは、布などでよくふきとってください。

JAU30600

JAU30690

エンジンのかかり具合、異音の点検

エンジンがすみやかに始動し、スムーズに回転するかを点検します。

エンジンから異音がしないかを点検します。

JAU30700

低速、加速の状態の点検

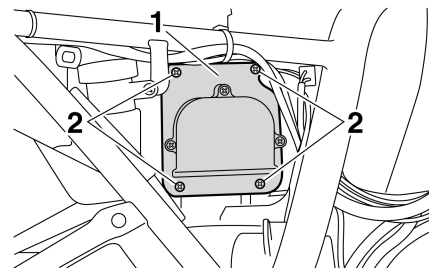
暖機運転後に、アイドリングがスムーズに続くかを点検します。

スロットルグリップを徐々に回してエンジンを加速したとき、スロットルグリップもエンジンもスムーズに回るかを走行などして点検します。このとき、エンジンストップ（エンスト）やノッキングなどが起きたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU20610

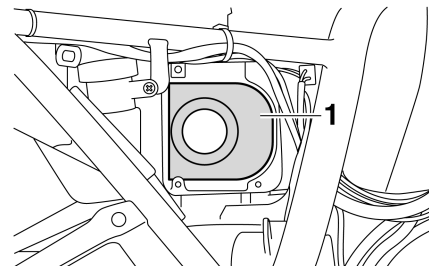
エアクリーナーエレメントの清掃

1. カバー A を外します。(6-2 ページ参照)
2. スクリューを外し、エアクリーナーケースカバーを取り外します。



1. エアクリーナーケースカバー
2. スクリュー

3. エアクリーナーエレメントを取り外します。

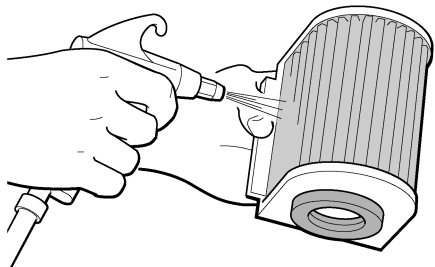


1. エアクリーナーエレメント

点検整備

JAU31021

4. エアクリーナーエレメントを軽くたたき、ゴミ、ほこりを落とし、エアを図のように吹き付けて清掃します。もしエアクリーナーに損傷がある場合、交換します。



5. エアクリーナーエレメントをエアクリーナーケースに取り付けます。

JCA11940

⚠ 注意

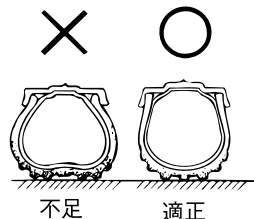
- 破れなどのあるものは交換してください。
- エアクリーナーエレメントに水や油などを付けないでください。水や油などが付着して汚れているものは交換してください。
- エアクリーナーエレメントの取り付けが悪いと、ゴミやほこりがエンジン内部に入り、摩耗や出力低下を起こして耐久性に影響を与えます。確実に取り付けてください。
- 洗車時にエアクリーナーケースに水を入れないでください。内部に水が入ると、始動不良などの原因になります。

- 著しくほこりなどの多い場所を走行したときは、定期点検期間より早めに点検、清掃を行ってください。

6. エアクリーナーケースカバーを取り付け、スクリューを締め付けます。
7. カバーを取り付けます。

タイヤ

空気圧



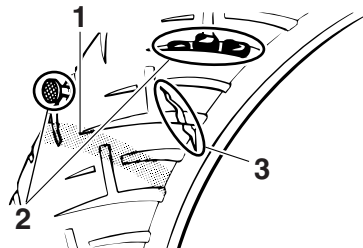
タイヤ接地部のたわみ状態により空気圧が不足していないかを点検します。たわみ状態が異常なときは、タイヤゲージで点検し、正規の空気圧にしてください。
空気圧はタイヤが冷えているときに測定してください。
この車はチューブレスタイヤを装着してあります。

タイヤ空気圧（冷間時）：

- 1 名乗車：
 前輪：
 250 kPa (2.50 kgf/cm²)
 後輪
 250 kPa (2.50 kgf/cm²)
- 2 名乗車：
 前輪：
 250 kPa (2.50 kgf/cm²)
 後輪
 290 kPa (2.90 kgf/cm²)
- 高速走行（1 名乗車）：
 前輪：
 250 kPa (2.50 kgf/cm²)
 後輪
 290 kPa (2.90 kgf/cm²)

タイヤの亀裂、損傷の点検

タイヤの接地面や側面に著しい亀裂や損傷がないかを点検します。
 この車はチューブレスタイヤを装着しています。タイヤの接地面や側面に釘、石、その他の異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを点検し、異常があったときはヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。



1. ウェアインジケーター（摩耗限度表示）
2. 異物（釘、石など）
3. 亀裂、損傷

タイヤの異常な摩耗

タイヤの接地面が異常に摩耗していないかを点検します。

タイヤの溝の深さ

タイヤの溝の深さをウェアインジケーターで点検します。ウェアインジケーターがあらわれたら、タイヤを交換してください。

要 点

- ウェアインジケーターはタイヤの溝が 0.8 mm になるとあらわれます。
- 安定したコーナリングや操縦性などを確保して安全な走行を行うため、タイヤの溝には充分注意してください。一般的に二輪

車のタイヤは溝の深さが前輪 1.6 mm、後輪 2.0 mm 以下になりましたら交換をおすすめします。

JWA11910

警告

- 異なった種類のタイヤや指定サイズ以外のタイヤを使用することは、車の安全走行に悪影響がありますので使用しないでください。
- タイヤに異常があると、操縦安定性に影響をおよぼしたりパンクの原因になります。異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

タイヤサイズ：

- 前輪：
 120/70 ZR17M/C (58W)
 後輪：
 180/55 ZR17M/C (73W)

指定タイヤ：

- 前輪：
 BRIDGESTONE/BT020F RADIAL EE
 後輪：
 BRIDGESTONE/BT020R RADIAL EE

点検整備

クラッチ

JAU28890

クラッチレバーの遊びの点検

クラッチレバーは無調整式です。クラッチレバーを手で作動させ、手ごたえを感じるかどうか確認します。

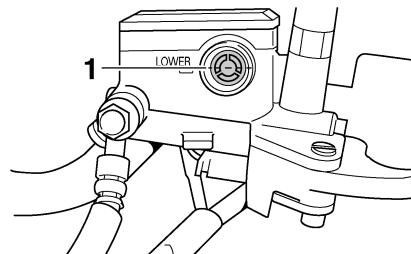
JWA11790

⚠ 警告

クラッチレバーの引き具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JAU29040

クラッチリザーバートank液量の点検



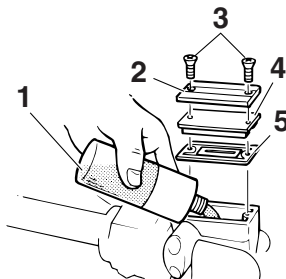
1. ロアレベル

マスターシリンダーキャップ上面を水平にして、クラッチリザーバートank内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。

クラッチ液の補給

JAU29090

1. リザーバートankのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを取り外し、キャップとダイヤフラムブッシュ、ダイヤフラムを取り外します。
3. クラッチ液をロアレベル以上補給します。



1. クラッチ液
2. キャップ
3. スクリュー
4. ダイヤフラムブッシュ
5. ダイヤフラム

4. ダイヤフラムのかみ込みに注意して、スクリューでキャップを取り付けます。

指定クラッチ液：

ヤマハ純正ブレーキフルード B F - 4
(DOT - 4)

⚠ 注意

- クラッチ液を補給するときは、リザーバートank内にゴミや水が混入しないように充分注意してください。
- クラッチ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、ダイヤフラムなどを取り付けたときにあふれます。
- 液が早く減少するようでしたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- クラッチ液の変質を防ぐため、他銘柄を混入させないでください。
- クラッチ液が塗装面やプラスチック、ゴム類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。
- クラッチ液は安全のために1年ごとの交換をおすすめします。

ブレーキレバーの遊び／ブレーキペダルの遊び、およびブレーキのきき具合の点検

JAU31120

ブレーキの遊びの点検

ブレーキレバーおよびブレーキペダルの遊びは無調整式です。ブレーキレバーおよびブレーキペダルを手で作動させ、手ごたえがあるかどうかを確認します。

JWA11740

警告

ブレーキレバーの引き具合、ブレーキペダルの踏み具合がやわらかく感じられるときは、エアが混入しているおそれがあります。ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキのきき具合の点検

乾いた路面を走行し、前輪ブレーキ、後輪ブレーキを別々に作動させたときのきき具合を点検します。

ブレーキのきき具合が悪いときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

JWA11760

警告

走行して点検するときは、交通状況に注意し、低速で走行しながら行ってください。

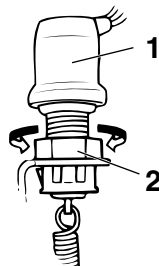
ブレーキランプスイッチ

ブレーキがきき始める直前にブレーキランプが点灯するか点検します。

JAU22290

リヤブレーキランプスイッチの調整

1. カバー A を取り外します。(6-2 ページ参照)
2. スイッチを指で押さえ、アジャスターを回して調整します。



1. リヤブレーキランプスイッチ
2. アジャスター

注意

リヤブレーキランプスイッチを調整するときは、スイッチ本体を回さないでください。スイッチ本体を回すと、リード線を傷付けます。

JCA12080

3. カバーを取り付けます。

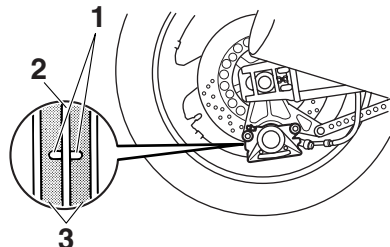
点検整備

JAU29580

ブレーキパッドの点検

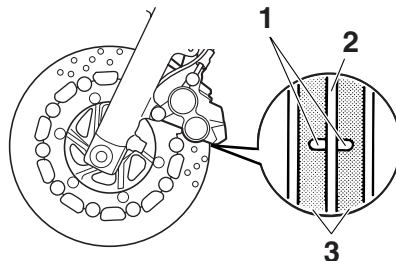
ブレーキパッドのインジケーター溝の深さで摩耗の状態を点検します。
インジケーター溝がなくなったら、ヤマハ販売店でブレーキパッドを交換してください。

前輪ブレーキ



- 1. インジケーター溝
- 2. ブレーキディスク
- 3. ブレーキパッド

後輪ブレーキ

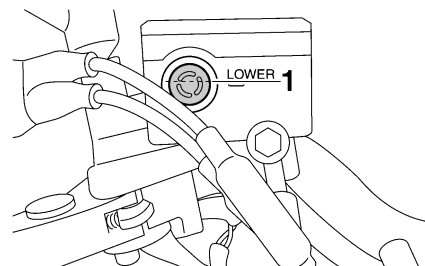


- 1. インジケーター溝
- 2. ブレーキディスク
- 3. ブレーキパッド

JAU30111

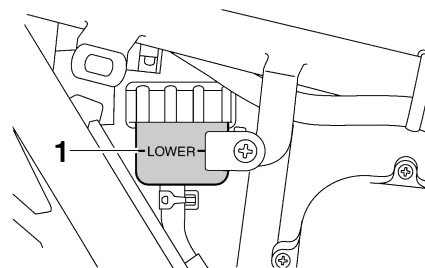
ブレーキ液量の点検

前輪ブレーキ



- 1. ロアレベル

後輪ブレーキ



- 1. ロアレベル

マスターシリンダーキャップ上面を水平にして、ブレーキリザーバータンク内の液量がロアレベル以上にあるかを点検します。
(ブレーキ液の補給は、6-10 ページ参照)

リヤのブレーキリザーバタンクの液量の点検は、カバーAを取り外して行います。(6-2 ページ参照)

JWA12150

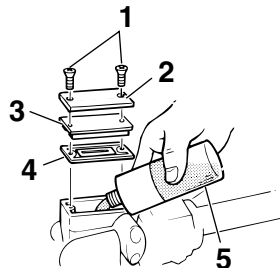
警告

ブレーキ液の減りが著しいときは、ブレーキシステムの液漏れが考えられます。販売店で点検・整備を受けてください。

ブレーキ液の補給

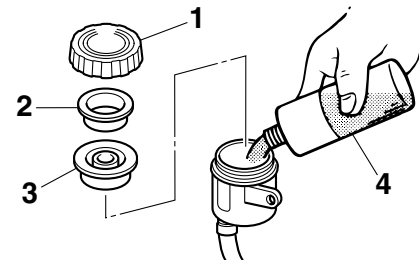
<前輪ブレーキ>

1. リザーバタンクのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
2. スクリューを外し、キャップとダイヤフラムブッシュ、ダイヤフラムを取り外します。
3. ブレーキ液をロアレベル以上補給します。



1. スクリュー
 2. キャップ
 3. ダイヤフラムブッシュ
 4. ダイヤフラム
 5. ブレーキ液
4. ダイヤフラムのかみ込みに注意して、スクリューでキャップを取り付けます。
- ### <後輪ブレーキ>
1. カバー A を取り外します。(カバーの取り外しは 6-2 ページ参照)

2. リザーバタンクのまわりをきれいにし、異物がタンク内に入らないようにします。
3. キャップを外し、ダイヤフラムブッシュとダイヤフラムを取り外します。
4. ブレーキ液をロアレベル以上補給します。



1. キャップ
 2. ダイヤフラムブッシュ
 3. ダイヤフラム
 4. ブレーキ液
5. ダイヤフラムのかみ込みに注意して、キャップを取り付けます。
6. カバーを取り付けます。

指定ブレーキ液：

ヤマハ純正ブレーキフルード B F - 4
(DOT - 4)

⚠ 警告

- ブレーキ液は、銘柄や性能が異なるものを混入しないでください。銘柄や性能が異なるブレーキ液を混入すると、ブレーキのきき具合やブレーキ系統の部品に悪影響を与えるおそれがあります。
- ブレーキ液を補給するときは、リザーバタンク内にゴミや水が混入しないようにしてください。
- 液面はブレーキパッドの摩耗と共に下がってきます。液が早く減少するようでしたら、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。
- ブレーキ液は安全のために1年毎の交換をおすすめします。

JWA12070

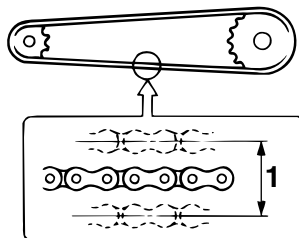
⚠ 注意

- ブレーキ液の補給は、入れすぎに注意してください。入れすぎると、タイヤフラムなどを取り付けたときに、あふれます。
- ブレーキ液が塗装面やプラスチック、ゴム類に付着すると部品が腐食することがあります。付着したら、すぐにふき取ってください。

JCA12330

ドライブチェーン

ドライブチェーンの点検



1. ドライブチェーンのたわみ量

メインスタンドを立て、前後スプロケット間のチェーン中央部を手で上下に動かし、たわみ量が規定の範囲にあるかをスケールなどで点検します。

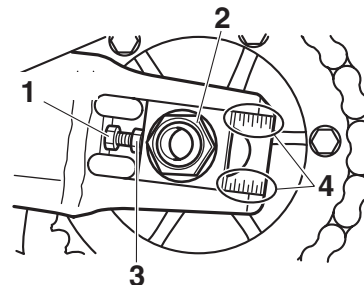
また、リヤホイールを浮かし、タイヤを手でゆっくり回しながらチェーンが滑らかに回転するか、給油は充分かを点検します。

ドライブチェーンたわみ量：
20.0–30.0 mm

JAU22760

JAU22791

2. ロックナットをゆるめて、チェーンの張り具合が規定値になるようにアジャスターで調整します。



1. ロックナット
2. セルフロックングナット
3. アジャスター
4. 刻み目盛り

要 点

刻み目盛りを左右同じ位置にします。

3. 調整後、ロックナットとセルフロックングナットを確実に締め付けます。

JAU22930

チェーンの張り調整

1. セルフロックングナットをゆるめます。

JAU23021

ドライブチェーンの給油

1. リヤホイールを浮かし、ホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンやスプロケットに付着した泥や汚れを柔らかいブラシなどで落とします。その後、MEスーパーチェーンクリーナーで洗浄します。
2. チェーンを乾燥させた後、リヤホイールを手でゆっくり回しながら、チェーンにME-180 チェーンオイルを給油します。

JCA12470

注意

この車はシールチェーンを採用しています。取り扱いには以下の点に注意してください。

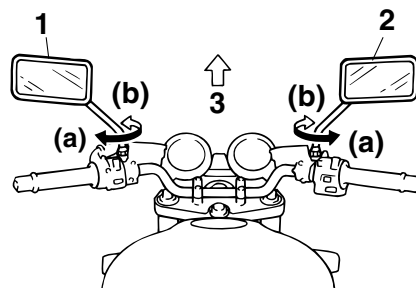
- スチーム洗浄はしないでください。
- シンナー、ガソリンなどの揮発性溶剤やワイヤーブラシを使用して洗浄しないでください。

JAU28600

バックミラー

バックミラーの取り付けおよび取り外しかた

- 右バックミラーは左ネジです。
左：反時計回り (a) に回すと締まります。
右：時計回り (b) に回すとゆるみます。
- 左バックミラーは右ネジです。
右：時計回り (a) に回すと締まります。
左：反時計回り (b) に回すとゆるみます。



1. 左バックミラー
2. 右バックミラー
3. 進行方向

JAU28620

車体各部の給油脂状態の点検

車体各部の給油脂状態が充分であることを点検します。

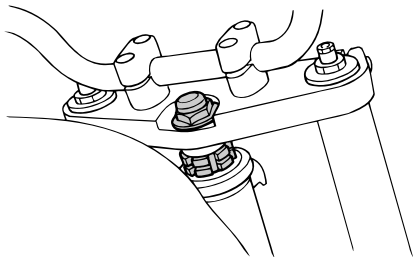
異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。

点検整備

JAU28650

アンダーブラケットの取り付け状態の点検（ステアリングシステム）

アンダーブラケットの締付ボルトまたは締付ナットに、ゆるみがないかを工具で点検します。



6

締付ボルトまたは締付ナットにゆるみがあるときは、ヤマハ販売店で規定トルクでの締め付けを依頼してください。

バッテリー

バッテリーの点検

この車のバッテリーは密閉式です。バッテリー液の補充、点検は不要です。バッテリーに異常があるときは、ヤマハ販売店で点検・整備を受けてください。バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、バッテリーを取り外して清掃します。

JAU28760

JWA11810

⚠ 警告

バッテリーは引火性ガス（水素ガス）を発生しますので、取り扱いを誤ると爆発し、ケガをすることがあります。次の点を必ず守ってください。

- 火気厳禁です。ショートやスパークさせたり、タバコなどの火気を近づけないでください。爆発のおそれがあります。
- 補充電は風通しのよいところで行ってください。
- ガソリン、油、有機溶剤などを付着させないでください。電そう割れの原因となることがあります。
- 落下などの強い衝撃を加えないでください。
- バッテリー液は希硫酸です。皮膚、目、衣服などに付着すると、重大な傷害を受けることがあります。
- 子供の手の届くところに置かないでください。

応急手当

- 万一、バッテリー液が皮膚、衣服などに付いたときはすぐに多量の水で洗い流してください。
- 目に入ったときは、すぐに多量の水で洗い流し、医師の治療を受けてください。

JCA12140

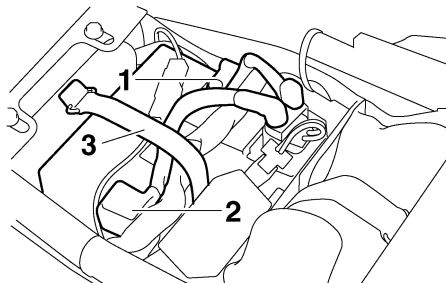
⚠ 注意

- このバッテリーは密閉式の 12V です。
- このバッテリーは液入り充電済です。液量点検および補水は必要ありません。
- 補充電には、密閉式バッテリー専用充電器を使用してください。くわしくはヤマハ販売店にご相談ください。
- 長期間ご使用にならないときは、6 か月ごとに補充電してください。
- バッテリーを交換するときは、必ず同型式のバッテリーを使用してください。

JAU28790

バッテリーの取り外し

1. シートを取り外します。(3-11 ページ参照)
2. バッテリーバンドを外します。
3. -（マイナス）側リード線を外し、次に +（プラス）側リード線を外します。
4. バッテリーを取り外します。



1. -リード線
2. +リード線
3. バッテリーバンド

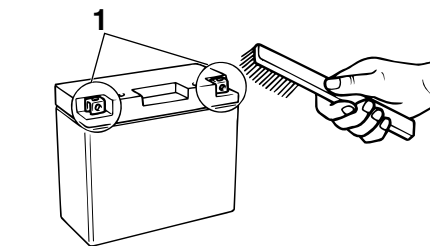
バッテリーの取り付け

取り付けは、取り外しと逆の手順で行います。

ターミナル部の清掃

JAU29410

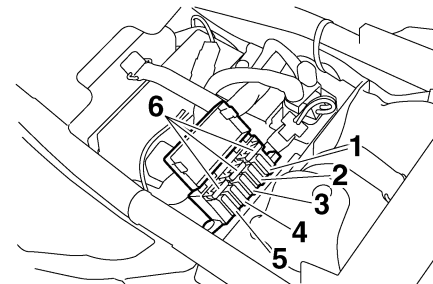
バッテリーターミナル部に汚れや腐食があるときは、やわらかいブラシなどで清掃します。また、白い粉がついているときは、ぬるま湯を注いでよくふき取ります。



1. ターミナル

ヒューズ交換

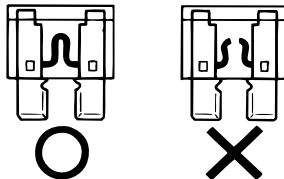
シート下のヒューズボックス内にセットされています。(3-11 ページ参照)



1. バックアップヒューズ (オドメーター／時計／イモビライザーシステム)
2. イグニッションヒューズ
3. ヘッドライトヒューズ
4. シグナルシステムヒューズ
5. メインヒューズ
6. スペアヒューズ

ヒューズが切れた場合、以下のように交換します。

1. メインスイッチを OFF にします。
2. 切れたヒューズを外し、規定アンペア数の新しいヒューズを取り付けます。



メインヒューズ：
40.0 A
シグナルシステムヒューズ：
15.0 A
ヘッドライトヒューズ：
15.0 A
イグニッションヒューズ：
15.0 A
バックアップヒューズ：
7.5 A

JCA11960

⚠ 注意

電気系統への損傷や発火を防ぐために、規定アンペア数以上のヒューズは使用しないでください。

3. メインスイッチを ON にし、装置が正しく作動することを点検します。
4. ヒューズを交換してもすぐに切れるときは、ヤマハ販売店で電気系統の点検を受けてください。

JCA12860

⚠ 注意

- 交換するヒューズは、規格外のものを使用しないでください。
- 指定容量を超えるヒューズを使用すると、配線の過熱や焼損の原因になります。
- 電装品類（ライト、計器など）を取り付けるときは、車種ごとに決められている「ヤマハ純正部品」を使用してください。それ以外のものを使用すると、ヒューズが切れたり、バッテリーあがりを起こすことがあります。
- 洗車時ヒューズボックスのまわりに水を強く吹き付けないでください。漏電や短絡（ショート）の原因になります。

JAU29440

灯火装置および方向指示灯の点検

1. メインスイッチを ON にします。
2. テールランプ、ブレーキランプなどの灯火装置や方向指示灯の点灯・点滅具合が良好かを点検します。
3. エンジンを始動し、ヘッドライトが良好かを点検します。
4. レンズなどに汚れや損傷がないかを点検します。

点灯しないときはヒューズを点検（6-14 ページを参照）し、異常がないときは電球を交換（「製品仕様」のページを参照）してください。

JCA12060

⚠ 注意

電球は、正規の規格と同じものと交換してください。これ以外のものを使用すると、球切れ、作動不良などの原因となります。

JAU29570

運行において異常が認められた箇所 の点検

運行中に異常を認めた箇所について、運行に支障がないかを点検します。

お車の手入れ

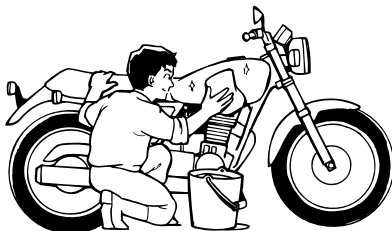
JAU27780

いつまでも車を長持ちさせるために、お手入れをしてください。
すみずみまで掃除すれば、普段気付かない異常箇所や摩耗が発見でき、故障の予防にもなります。

洗 車

雨天走行後など、車が汚れたときは早めに洗車してください。車をサビやキズから守ります。

- 中性洗剤を使用して十分に水洗いします。
- 柔らかい布で、車に付着した水分をよくふきとります。
- スチーム洗車や水道ホースなどで、車に直接圧力をかける洗車をしないでください。キズの原因になります。
- 洗車後、必要に応じて各部にグリースなどを注油してください。



JWA11930

警告

- 洗車はエンジンが冷えているときにしてください。
- 洗車後、ブレーキの効きが悪くなることがあります。効きが悪いときは、前後の車に充分注意しながら低速で走行し、効きが回

JAU27790

復するまで数回ブレーキを軽く作動させて、ブレーキの湿りをかわかしてください。

- ブレーキディスクやパッドにワックスやグリースなどの油脂類をつけないでください。ブレーキが効かなくなり、事故の原因になることがあります。

JCA12210

注意

- エアクリナーや電装品などに水が入らないように注意してください。故障の原因になります。
- マフラー内部に水がたまると、始動不良やサビの原因になることがあります。洗車時はビニール袋をかけるなどして、内部に水が入らないようにしてください。
- コンパウンドの入ったワックスは、プラスチック部分を傷つけますので使用しないでください。

要 点

シートの方から水を強くかけないでください。内部に水が入り、書類が濡れることがあります。

キャストホイールの取り扱い

JAU27990

日常のお手入れ

清掃は中性洗剤を使用し、スポンジで水洗いします。

(工業用洗剤、みがき粉、クレンザー、金属タワシなどは、傷がつくので使用しないでください。)

洗車後は、乾いた布などで水分をよくふきとってください。

長期間お手入れをしないと、表面だけでなく内部まで腐食します。手遅れにならないように、お手入れをしてください。

JWA11950

警告

変形したり、損傷したキャストホイールは、修正して使用しないでください。変形したり、損傷したときは、ヤマハ販売店にご相談ください。

JCA12220

注意

- 縁石などに乗り上げるときは、キャストホイールのリムが傷つきやすいので注意してください。
- アルミは塩分に弱く腐食しやすいので、海岸付近や凍結防止剤をまいた道路などを走った後は、すぐに水洗いをしてください。

保管のしかた

JAU28061

車はできるだけ敷地内に保管し、屋外に駐車するときはボディーカーバーをかけてください。

なお、ボディーカーバーはマフラーが冷えてからかけてください。

JCA12431

注意

長期間お乗りにならないときは、以下のことを守ってください。

- 保管する前にワックスがけをしてください。サビを防ぐ効果があります。
 - キャブレター内のガソリンをすべて抜き取ってください。内部のつまりなどを防ぎます。
 - 6 か月ごとにバッテリーの補充電をしてください。
 - 長期保管後の走行前には、バッテリーの充電、および各部の点検をしてください。
- ※補充電およびガソリンの抜き取りは、ヤマハ販売店にご相談ください。

アフターケア用品について

JAU28080

大切な車の寿命は、使用するオイルの品質により大きく左右されます。ヤマハの車には、ヤマハ純正用品をご使用ください。

JAU28110

4 サイクルオイルエフェロプレミアム

高回転・高負荷下でも油膜保持性能が高く、高性能エンジン搭載の中・大型車に最適な高品質オイルです。

4 サイクルオイルエフェロスポート

オイル消費を抑え、高速走行、ロングツーリングなどでも優れた性能を発揮するマルチタイプのオイルです。

4 サイクルオイルエフェロベシッ

一般走行、業務用に最適なコストパフォーマンスオイルです。

お車の手入れ



1. エフェロプレミアム
2. エフェロスポーツ
3. エフェロベーシック

ブレーキフルード BF-4

JAU28200

高沸点、防錆性、安定性、ゴム劣化防止性に優れたブレーキフルードです。



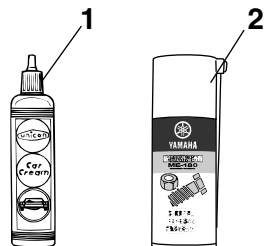
ME-180 チェーンオイル

JAU28220

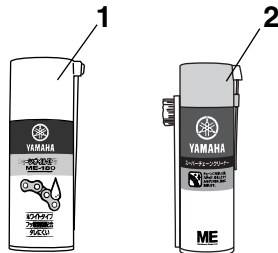
フッ素樹脂配合により耐摩耗性、耐熱性に優れたチェーンオイルです。“ドライ”と“ウェットムースタイプ”があります。

ME スーパーチェーンクリーナー

チェーンに付着したグリスやオイルなどの油汚れを手軽に素早くクリーニングします。



1. ユニコンカークリーム
2. ME-180 (防錆潤滑剤)



1. ME-180 チェーンオイル
2. ME スーパーチェーンクリーナー

ユニコンカークリーム (ワックス)

JAU28360

塗装面の汚れを簡単にとり、手間をかけずに美しい光沢が得られます。また、どんな塗装にも使用できる伸びのよいワックスです。

ME-180 (防錆潤滑剤)

防錆、潤滑、防湿、浸透性に優れた金属保護液です。

寸法：

全長：
2175 mm
全幅：
780 mm
全高：
1115 mm
シート高：
775 mm
軸間距離：
1500 mm
最低地上高：
120 mm

重量：

乾燥重量：
222.0 kg
車両重量：
245.0 kg
分布荷重（前）：
119.0 kg
分布荷重（後）：
126.0 kg
車両総重量：
355.0 kg
分布荷重（前）：
139.0 kg
分布荷重（後）：
216.0 kg
乗車定員：
2 名

性能：

定地燃費（国土交通省届出値）：
26.0 km/L/60.0 km/h
最小回転半径：
2800 mm
最高出力：
74 kW@8000 r/min (100.0 PS@8000 r/min)
最大トルク：
98.00 Nm@6500 r/min (10.0 kgf-m@6500 r/min)

原動機：

原動機種類：
4 サイクル空冷 DOHC
気筒数・配列：
直列 4 気筒横置
総排気量：
1250.0 cm³
内径 × 行程：
79.0 × 63.8 mm
圧縮比：
9.70 : 1
圧縮圧力（標準）：
1050 kPa/400 r/min (10.5 kgf/cm²/400 r/min)
エアフィルターエレメント：
乾式不織布
クラッチ形式：
湿式多板
ミッション・チェンジ方式：
常時かみ合式 5 速
始動方式：
セル式

車体：

フレーム形式：
ダブルクレードル
キャスト：
25.50°
トレール：
100.0 mm

ステアリングシステム：

ハンドル切れ角（左）：
37.0°
ハンドル切れ角（右）：
37.0°

燃料：

フューエルタンク容量：
21.0 L
予備容量：
4.5 L

フロントブレーキ：

ブレーキ形式：
油圧式ダブルディスクブレーキ

リアブレーキ：

ブレーキ形式：
油圧式シングルディスクブレーキ

懸架方式：

種類（前）：
テレスコピック
種類（後）：
スイングアーム

緩衝方式：

ショックアブソーバータイプ（前）：
コイルスプリング / オイルダンパ

製品仕様

ショックアブソーバタイプ（後）：
コイルスプリング / ガスオイルダンパ

フロントタイヤ：

種類：
チューブレス
サイズ：
120/70 ZR17M/C (58W)
メーカー / 銘柄：
BRIDGESTONE/BT020F RADIAL EE

リアタイヤ：

種類：
チューブレス
サイズ：
180/55 ZR17M/C (73W)
メーカー / 銘柄：
BRIDGESTONE/BT020R RADIAL EE

トランスミッション：

1 次減速比：
98/56 (1.750)
1 速：
40/14 (2.857)
2 速：
36/18 (2.000)
3 速：
33/21 (1.571)
4 速：
31/24 (1.292)
5 速：
29/26 (1.115)
2 次減速比：
38/17 (2.235)

エレクトリカル：

点火方式：
トランジスタ（デジタル進角）
ヘッドライト形式：
バルブタイプ
ヘッドライト球：
ハロゲンバルブ

バルブワット数 × 個数：

ヘッドライト：
12 V, 60 W/55.0 W × 1
テール / ブレーキランプ：
12 V, 5.0/21.0 W × 2
方向指示灯 / ポジションライト：
12 V, 21 W/5.0 W × 2
方向指示灯（後）：
12 V, 21.0 W × 2
メーター灯：
LED

パイロットランプワット数 / 個数：

ニュートラルランプ：
12 V, 1.7 W × 1
方向指示器表示灯：
12 V, 1.7 W × 2
オイル残量警告灯：
12 V, 1.7 W × 1
ヘッドライト上向き表示灯：
12 V, 1.7 W × 1
イモビライザシステム表示灯：
LED

エンジンオイル：

指定オイル：
ヤマハ4 サイクルオイルエフェロ プレ
ミアム、スポーツ、ベーシック

エンジンオイル容量：

オイルフィルターエレメント無交換時：
3.00 L
オイルフィルターエレメント交換時：
3.35 L

ドライブチェーン：

たわみ量：
20.0–30.0 mm

ケーブルの遊び：

スロットルケーブル遊び：
3.0–5.0 mm

フロントディスクブレーキ：

パッド厚さー内側：
5.5 mm

使用限度：
0.5 mm

パッド厚さー外側：
5.5 mm

使用限度：
0.5 mm

指定ブレーキフルード：
DOT 4

リアディスクブレーキ：

パッド厚さー内側：
5.5 mm

使用限度：
0.5 mm

パッド厚さ－外側：
5.5 mm
使用限度：
0.5 mm
指定ブレーキフルード：
DOT 4
ホイールトラベル：
ホイールトラベル（前）：
130.0 mm
ホイールトラベル（後）：
110.0 mm
フロントサスペンション：
オイル量：
526.0 cm³
オイルレベル：
118.0 mm
タイヤ空気圧（冷間時）：
前輪（1名乗車）：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪（1名乗車）：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
前輪（2名乗車）：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪（2名乗車）：
290 kPa (2.90 kgf/cm²)
高速走行（1名乗車）：
前輪：
250 kPa (2.50 kgf/cm²)
後輪：
290 kPa (2.90 kgf/cm²)

バッテリー：
バッテリー型式：
GT14B-4
バッテリー容量：
12 V, 12.0 Ah
点火タイミング：
点火時期（B. T. D. C.）：
5.0 °/1050 r/min
スパークプラグ：
メーカー / 型式：
NGK/DPR8EA-9
メーカー / 型式：
DENSO/X24EPR-U9
プラグギャップ：
0.8–0.9 mm
ヒューズ容量：
メイン：
40.0 A
ヘッドライト：
15.0 A
シグナルシステム：
15.0 A
イグニッション：
15.0 A
バックアップ：
7.5 A

ユーザー情報

9

サービスマニュアル（別売）の紹介

JAU28370

サービスマニュアルには、点検・調整や分解・組立の方法を写真やイラストを用いて説明してあります。車の概要や構造を理解するためにご利用ください。

サービスマニュアルのご注文は、ヤマハ販売店で受けております。部品番号をお知らせください。

XJR1300 サービスマニュアル 部品番号：

基本版：
5EA-28197-J0

追補版：
5EA-28197-J5
5UX-28197-J5

※追補版は、マイナーチェンジなどで機構に変更があったときに、その変更部分のみを説明したサービスマニュアルです。基本版とあわせてご使用ください。

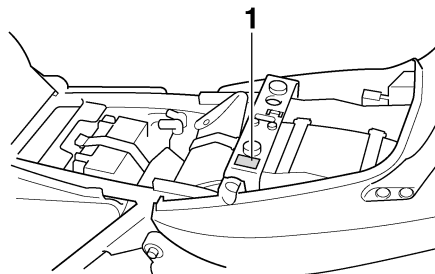
車両情報

JAU28450

モデルラベル パーツオーダー、アフターサービスなどに使用します。

モデルラベルは、あなたの車を正確に特定するための情報をコード化したものです。ご相談の際には、車名およびモデルラベルの内容を正確にご連絡ください。

モデルラベルは、シートの下のフレームに貼り付けてあります。



1. モデルラベル

あなたの車の情報を記入し、控えてください。

車名は

XJR1300

モデルラベル

製品仕様を示しています。

○

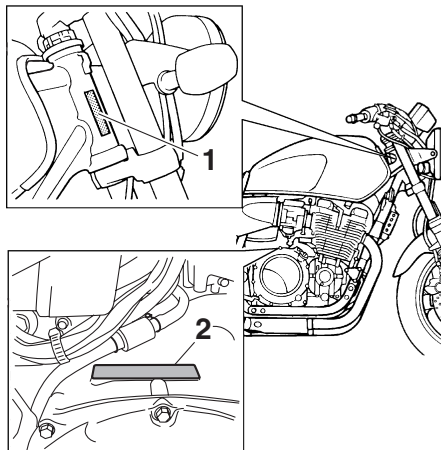
カラーリングを示しています。

●

車台番号、原動機番号

ナンバー登録、自動車保険の加入などに使用します。

詳しくは、お買い求めの販売店にご相談ください。



1. 車台番号
2. 原動機番号

あなたの街のあなたのお店

最寄りのお客様相談窓口については、メンテナンスノートの
巻末をご覧ください。

QQS-CLT-104-5UX

再生紙を使用しています



PRINTED IN JAPAN
2003.11-0.4×1 CR
(J)